活動報告

日本語研修コース

深見兼孝

修了者

第 58 期生名簿（2014 年 4 月～2014 年 9 月）［1 名］

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
Tehreem Chaudhry	テリーム	パキスタン	社会人類学	広島大学
Orgaz Alvarez Jose David	ダビド	スペイン	生物学	広島大学

第 59 期生名簿（2014 月 10 月～2015 年 3 月）［16 名］

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
Mateus Segura Jhon Alexander	ジョン	コロンビア	建築構造学	広島大学
Basister Michel Pampelon	マイケル	フィリピン	特別支援教育	広島大学
Amorsolo Sylvestre Uy	シルバ	フィリピン	物理教育	広島大学
Mangaliag Antonio De Los Santos	アントン	フィリピン	数学教育	広島大学
Basa Krizzalyn Martin	クリザ	フィリピン	物理教育	広島大学
Lamina Omar Gonzales	オマル	フィリピン	自然環境・防災教育	広島大学
Hambalika Ina Lestari	イナ	インドネシア	英語教育	広島大学
Wan Jaafar Wan Naliza Binti	ナリザ	マレーシア	算数教育	広島大学
Putra Anggra Agustiant	アングラ	インドネシア	機械システム工学	広島大学
Gnanasekaran Kishorkumar	キショル	インド	機械システム工学	広島大学
Sivakumar Dineshkumar	ディネシュ	インド	機械システム工学	広島大学
Ranganathan Prashannak Kumar	ラジャ	インド	機械システム工学	広島大学
Khokasai Jinjutha	コカサイ	タイ	運送･環境工学システム	広島大学
Kosacarn Warat	ワラット	タイ	機械物理工学	広島大学
Wardana Ananta Adhi	アンタ	インドネシア	システムサイバネティクス	広島大学
Zhao Hwa（趙華）	チョウカ	中国	幼児教育	広島大学

講師一覧

第 58 期（2014 年 4 月～2014 年 9 月）

専任　　中川正弘　中矢礼美　深見兼孝

非常勤　伊ヶ崎泰枝　今石正人　後藤美知子　佐藤道雄　松村一徳

第 59 期（2014 年 10 月～2015 年 3 月）

専任　　中川正弘　中矢礼美　深見兼孝

非常勤　伊ヶ崎泰枝　今石正人　後藤美知子　佐藤道雄　松村一徳

第 58 期(2014 年 4 月～2014 年 9 月)予定表

	行事／試験等	見学	備考
4/4	4/4（金）14:00 オリエンテーション (K308)		
4/7 - 4/11	4/7（月）13:30 開講式（学生プラザ多目的室）		
4/14 – 4/18			
4/21 – 4/25		4/25（金） 広島市	4/25（金） 17:00 ホストファミリー対面式
4/28 – 5/2			4/29（月）昭和の日（祝日） 5/3（土）憲法記念日（祝日） 5/4（日）みどりの日（祝日）
5/5 – 5/9			5/5（月）こどもの日 5/6（月）振替休日
5/12 – 5/16			
5/19 – 5/23		5/23（金） 宮島	
5/26 – ５/30			
6/2 – 6/6	6/5（木）中間テスト		
6/9– 6/13			
6/16– 6/20			
6/23 – 6/27			
6/30 – 7/4			
7/7 – 7/11		7/11（金）マツダ	
7/14 - 7/18			
7/21 – 7/25			7/21（月）海の日（祝日）
7/28 – 7/31	7/31（木）期末テスト		
8/1 – 8/29	夏休み		
9/1 – 9/5	特別講義		
9/8	9/8（月）研修成果発表会・修了式（学士会館レセプションホール）		

第 59 期(2014 年 10 月～2015 年 3 月)日本語研修コース予定表

	行事／試験等	見学	備考
10/6- 10/10	10/6（月）11:00 オリエンテーション (K308) 10/7（火）13:30 開講式（学士会館レセプションホール）		
10/13–10/17			10/13（月）体育の日（祝日）
10/20 – 10/24		10/24（金） 広島市	10/24（金） 17:00 ホストファミリー対面式
10/27 – 10/31			
11/3 – 11/7			11/3（月）文化の日（祝日）
11/10–11/14			
11/17 – 11/21		11/21（金） 宮島	
11/24 – 11/28			11/24（月）勤労感謝の日（11/23）の振替休日
12/1 – 12/5	12/4（木）中間テスト		
12/8 – 12/12			
12/15–12/19			
12/22 – 12/23			12/23（火）天皇誕生日（祝日）
12/24 – 1/7	冬休み		
1/8– 1/9			
1/12 - 1/16			1/12（月）成人の日（祝日）
1/19 – 1/23		1/23（金）マツダ	
1/26 – 1/30			
2/2 – 2/6			
2/9 – 2/13			2/11（水）建国記念の日（祝日）
2/16-2/20			
2/23-2/27	2/26（木）期末テスト		
3/2-3/5	3/2（月）-3/4（水）特別講義 3/5（木）研修成果発表会・修了式（学生プラザ多目的室）		

日本語教育部門：日本語・日本事情
（２０１４年４月～２０１５年３月）

田村泰男

１．授業科目一覧
・東広島キャンパス

授　業　科　目	開　設 単位数	学期別週授業時数		受講登録者数	
		前　期	後　期	前　期	後　期
総合日本語初級ＩＡ	１・１	2	2	25	35
総合日本語初級ＩＢ	１・１	2	2	22	36
総合日本語初級ＩＣ	１・１	2	2	23	32
総合日本語初級ＩＤ	１・１	2	2	16	33
総合日本語初級ＩＥ	１・１	2	2		
総合日本語初級ⅡＡ	１・１	2	2	18	18
総合日本語初級ⅡＢ	１・１	2	2	17	14
総合日本語初級ⅡＣ	１・１	2	2	21	18
総合日本語初級ⅡＤ	１・１	2	2	18	17
総合日本語中級ＩＡ	1	2		13	
総合日本語中級ＩＢ	1	2		13	
総合日本語中級ＩＣ	1	2		12	
総合日本語中級ＩＤ	1		2		22
総合日本語中級ＩＥ	1		2		22
総合日本語中級ＩＦ	1		2		22
総合日本語中級ⅡＡ	1	2		19	
総合日本語中級ⅡＢ	1	2		17	
総合日本語中級ⅡＣ	1	2		20	
総合日本語中級ⅡＤ	1		2		26

総合日本語中級ⅡＥ	1		2		26
総合日本語中級ⅡＦ	1		2		24
日本の教育と文化Ａ	1	2		16	
日本の教育と文化Ｂ	1		2		32
日本語聴解特別演習Ａ	1	2		20	
日本語聴解特別演習Ｂ	1		2		30
日本語分析特別演習Ａ	1	2		36	
日本語分析特別演習Ｂ	1		2		45
日本語表現特別演習Ａ	1	2		23	
日本語表現特別演習Ｂ	1		2		33
日本語語彙特別演習Ａ	1	2		36	
日本語語彙特別演習Ｂ	1		2		45
映像日本語特別演習Ａ	1	2		29	
映像日本語特別演習Ｂ	1		2		23
論文作成法Ａ	1	2		33	
論文作成法Ｂ	1		2		28
日本の社会・文化Ａ	1	2		25	
日本の社会・文化Ｂ	1		2		35
日本語･日本文化特別研究ＩＡ	4		4		13
日本語･日本文化特別研究ＩＢ	4		4		13
日本語･日本文化特別研究ＩＣ	4		4		13
日本語･日本文化特別研究ⅡＡ	4	4		15	
日本語･日本文化特別研究ⅡＢ	4	4		15	
日本語･日本文化特別研究ⅡＣ	4	4		15	

・霞キャンパス

授　業　科　目	開　設 単位数	学期別週授業時数		受講登録者数	
		前　期	後　期	前　期	後　期
総合日本語初級ＩＡ	１・１	2	2	6	7
総合日本語初級ＩＢ	１・１	2	2	5	15
総合日本語初級ⅡＡ	１・１	2	2	6	6

２．授業内容

（東広島キャンパス）
・レベル１

授業科目	総合日本語初級ＩＡ・ＩＢ・ＩＣ・ＩＤ
担当教員	石原 淳也・深見 兼孝・堀田　泰司・山中 康子・渡辺 久美
目　　標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内　　容	第1週－第8週 ひらがな、カタカナと日本語の発音、あいさつ、数詞、名詞文、指示詞、時間表現、自動詞文、移動の動詞、他動詞文、斜格助詞、形容詞、目的語+が、存在表現、数量詞、比較、中間試験 第9週－第15週 要求・希望、テ形、許可・禁止、進行、連続した行為、ナイ形、禁止、義務、辞書形、普通形過去、引用、関係節、時を表す従属節、授受動詞、条件節、期末試験
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅰ　本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価	出席・試験・宿題

・レベル２

授業科目	総合日本語初級ⅡＡ・ⅡＢ・ⅡＣ・ⅡＤ
担当教員	田村 泰男・中川 正弘・堀田　泰司・下村 真理子
目　　標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内　　容	第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、 テスト(1) 第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ　本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価	出席・試験・宿題

・レベル３

授業科目	総合日本語中級ＩＡ・ＩＢ
担当教員	浮田 三郎・渡部 浩見
目　　標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内　　容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 本授業では次のトピックを扱う： 音楽の音と効果、いい数字･悪い数字、「おもしろい」日本、くしゃみ、 わたしの町、この日に食べなきゃ意味がない！、お相撲さんの世界、第一印象
テキスト	「中級を学ぼう　−日本語の文型と表現５６」（ｽﾘｰｴｰﾈｯﾄﾜｰｸ）
成績評価	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級ＩＣ
担当教員	坂田 光美
目　　標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内　　容	１）トピックに関するＣＤを聞いて質問に答え、内容を理解する。 ２）スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 ３）内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： いただきます、川を渡る、車は左、人は右？、千羽鶴 合格は誰のおかげ？、時差ぼけ、小判がこわい、 道路からメロディー、カラオケ発明者にノーベル賞？、 砂糖の消費量、盆栽、駅伝、波力発電、河童、 「もったいない」を国際語に！、思いがけない援助、 新幹線の顔、ビルの地下の野菜畑、イルカは頭がいい？、 留学生文学賞、菜の花プロジェクト、今日は何色のスーツですか 缶コーヒーの値段、あがらないためには、国際宇宙ステーション
テキスト	「新・毎日の聞き取り５０日 vol.2」（凡人社）
成績評価	出席状況と試験および宿題による評価。

授業科目	総合日本語中級ＩＤ・ＩＥ
担当教員	浮田 三郎・渡部 浩見
目　　標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内　　容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。 適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」（白帝社）
成績評価	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級ＩＦ
担当教員	下村 真理子
目　　標	音声教材を用いて、一定の長さの説明文や解説文の聞き取り能力を養うとともに総合的な日本語能力を高める。
内　　容	１）トピックに関するＣＤを聞いて質問に答え、内容を理解する。 ２）スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 ３）内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： もしもし、旗のデザイン、海からの便り、カラスのカー子ちゃん たためるピアノ、日本人と果物、待つ時間・待たせる時間、震度３、 世界の人口、牛丼の作り方、ドライアイ、 日本の地方都市、横断歩道、弁当の日、コンビニ図書館、 右回りの時計、目にやさしい色、上手に泣いて、ストレス解消、 阿波踊り、富士山が見えるところ、アニメ文化の輸出、 十二支の話、東京を回る山手線、どんな結婚披露宴がいい？、 通話をやめた若者
テキスト	「新・毎日の聞き取り５０日 vol.1」（凡人社）
成績評価	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

・レベル４

授業科目	総合日本語中級ⅡＡ・ⅡＢ
担当教員	田村 泰男・坂田 光美
目　　標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内　　容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。 授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～という、～に基づく～、～と同時に、～による、～際、～にかけ て、～さえ、～なんて、こと、～を問わず、～ をめぐって、～ところ、～向き／～向け、～における、～上、～うえで、～なり、ＶたＮ、～という点、～にかかわる、～をもたらす、～に対して／～ にとって、～ばかり／～だけ、～を通して／～を通じて、～ぶり、 ～とはいえ、～当たり、たとえ～も、～やら～やら、～に関する～、～限り、～がち、～っぽなし、～以上、～抜きの～、～おかげで／～せいで、～にもかかわらず、～につれて、～に例える、～に違いない、～得ない／～得る、～っぽい、～にしても、～つつ、 ～めく、～かのように、～結果、～に比べて、もの
テキスト	「中級を学ぼう　日本語の文型と表現８２」（ｽﾘｰｴｰﾈｯﾄﾜｰｸ）
成績評価	出席、試験、宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡＣ
担当教員	山中 康子
目　　標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内　　容	本授業では、次のようなトピックスを扱う： 回転寿司、郵便局からのお知らせ、名前のない手紙、 成績と朝ごはん、地震に強いビル、いちばん上の子、結婚相手、 太鼓のひびき、睡眠不足、お菓子のおまけ、進化するロボット、 人類はメン類、日本を知らない日本人、よみがえった日本の技術 若い登山家、変化する就職活動、三年寝太郎、屋上の緑化、 英語力や資格は必要ですか、燃料電池自動車
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 下」（凡人社）
成績評価	試験、出席、課題

授業科目	総合日本語中級ⅡＤ・ⅡＥ
担当教員	田村 泰男・坂田 光美
目　　標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内　　容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表　現の解説を行う。 ～ながら、～まい、～わけだ、～でも、～ほど、～なら、～ても、～てくる、～てしまう、～ながら、～よう、～がる、～ことにする／なる、～とか～とか、～させる、～てたまらない、～たばかり、～ものだ、～てみる、～中、～し～し、～かもしれません、～つもり、～くらい、～なければならない、～まま、～ようとしない、～たものだ、～から～にかけて、～ものの、～やら～やら、～につれて、～ば～ほど、～として、～によって、～ところ、～にとって、～はずだ、～さえ、～うちに、～はずがない
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」（研究社）
成績評価	出席、試験、宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡＦ
担当教員	山中 康子
目　　標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内　　容	教材を聴く前に先ず、 (1)イラストによって、教材の内容を概観する。 (2)関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3)教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4)タスクに答える。 (5)話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6)語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7)音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 上」（凡人社）
成績評価	試験、出席、課題

授業科目	日本の教育と文化Ａ
担当教員	中矢 礼美
目　　標	日本社会と文化を深く理解することを目的に、日本における子育て・学校教育・社会教育の歴史と現状から，日本社会の発展と課題、文化に与える影響を紹介し、学生は比較考察や議論を行う。
内　　容	第1回　オリエンテーション、 第2回　日本の子育て文化 第3回　日本の子育て政策と現状 第4回　日本の学校教育の成立と発展 第5回　日本の学校教育の目的：「生きる力」の教育（総合的な学習） 第6回　「生きる力」の教育（学校給食と食育） 第7回　学校の規律文化　　第8回　愛国心教育 第9回　学校におけるいじめ問題と対応 第10回　「生きる力」の教育（学校給食と食育） 第11回　日本におけるメディア教育　　第12回　日本におけるキャリア教育 第13回　日本における平和教育 第14回　日本の社会教育（公民館・図書館） 第15回　学生グループ討議
テキスト	適宜配布する。
成績評価	授業態度、毎回のコメント用紙、レポート

授業科目	日本の教育と文化Ｂ
担当教員	中矢 礼美
目　　標	日本社会と文化を深く理解することを目的に、日本における子育て・学校教育・社会教育の歴史と現状から，日本社会の発展と課題、文化に与える影響を紹介し、学生は比較考察や議論を行う。
内　　容	第1回　オリエンテーション（社会学的な見方） 第2回～第5回　日本人のイニシエーション 　　－妊娠・出産・産後、子ども期、青年期、成人期－ 第6回～第8回　　日本の学校におけるキャリア教育 　　－自己発見、職業意識、実習・進路選択－ 第9回～第10回　日本の学校における伝統文化の継承 第11回　日本の学校における歴史教育 第12回　日本の学校における国際理解教育 第13回　日本の学校における言語教育 第14回～第15回　学生グループ討議・発表
テキスト	事前に資料を配布します。
成績評価	授業態度、コメント用紙、レポート

・レベル５

授業科目	日本語聴解特別演習Ａ
担当教員	深見 兼孝
目　　標	講演の日本語の内容を聞き取る能力を身につける。
内　　容	第1回　導入。寝ているとき 第2回～第4回　昨日の私と今日の私 第5回～第6回　りんご　　第7回　情報化社会 第8回　個性的であること 第9回～第10回　話せばわかる 第11回　伝統芸能　　第12回～第14回　子育て 第15回　地方と都会 各回とも、語句のチェック、聞き取り練習、スクリプトによる確認の順で授業を進める。
テキスト	CD『養老孟司が語る「わかる」ということ』
成績評価	試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。

授業科目	日本語聴解特別演習Ｂ
担当教員	深見 兼孝
目　　標	ラジオドラマの日本語を聞き取る力を養成する。
内　　容	第1回～第4回　出会い 第5回～第7回　江夏 第8回～第10回　野球場 第11回　再会 第12回～第14回　プレゼント 第15回　エピローグ 各回とも、語句のチェック、聞き取り練習、スクリプトによる確認
テキスト	『ラジオドラマCD博士の愛した数式』
成績評価	試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。

授業科目	日本語分析特別演習Ａ
担当教員	中川 正弘
目　　標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内　　容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。 前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価	提出作文、テスト

授業科目	日本語分析特別演習Ｂ
担当教員	中川 正弘
目　　標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内　　容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。 後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価	提出作文、テスト

授業科目	日本語表現特別演習Ａ
担当教員	浮田 三郎
目　　標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内　　容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。 テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 諺の表現法　2. 親と子　3. 夫婦　4. 恋愛 5. 油断と用心　6. 欲　7. 酒　8. 友　9. 秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（１９８２年）等
成績評価	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語表現特別演習Ｂ
担当教員	浮田 三郎
目　　標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内　　容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 睡眠　2. 病気　3. 生死　4. 季節　5. 天候 6. 学者　7. 教育　8. 義理　9. 動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（１９８２年）等
成績評価	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語語彙特別演習Ａ
担当教員	田村 泰男
目　　標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内　　容	1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喩表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価	テスト、出席、宿題

授業科目	日本語語彙特別演習Ｂ
担当教員	田村 泰男
目　　標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内　　容	1. 特別な読み方をする漢字 2. 送り仮名によって読み方の違う漢字 3. 読み方が二通りある漢字熟語 4. 国字　5. 畳語　6. 類義語・類意表現 7. 若者語　8. 外来語　9. 接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価	テスト、出席、宿題

授業科目	映像日本語特別演習Ａ
担当教員	石原 淳也
目　　標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ることを目標とする。
内　　容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価	出席・授業態度・レポート

授業科目	映像日本語特別演習Ｂ
担当教員	石原 淳也
目　　標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ることを目標とする。
内　　容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価	出席・授業態度・レポート

授業科目	論文作成法Ａ
担当教員	中矢 礼美
目　　標	大学の講義を受講したり、研究活動を行ったりするのに必要な高度な日本語の運用能力を身につける。学術的なテーマについて、日本語による討議、発表、レポート・論文作成ができる能力を育成する。
内　　容	第1回 レポートの文体　第2回 課題の提示 第3回 目的の提示　第4回 定義と分類 第5回 図表の提示　第6回 変化の形容 第7回 対比と比較　第8回 原因の考察 第9回 列挙　第10回 引用 第11回 同意と反論　第12回 帰結 第13回 結論の提示　第14回 文型・表現 第15回 日本語論文モデルの購読・解説
テキスト	『留学生の日本語④論文作成編』（アルク）
成績評価	授業態度、試験結果

授業科目	論文作成法Ｂ
担当教員	中矢 礼美
目　　標	大学の講義を受講したり、研究活動を行ったりするのに必要な高度な日本語の運用能力を身につける。学術的なテーマについて、日本語による討議、発表、レポート・論文作成ができる能力を育成する。
内　　容	第1回 レポートの文体　第2回 課題の提示 第3回 目的の提示　第4回 定義と分類 第5回 図表の提示　第6回 変化の形容 第7回 対比と比較　第8回 原因の考察 第9回 列挙　第10回 引用 第11回 同意と反論　第12回 帰結 第13回 結論の提示　第14回 文型・表現 第15回 日本語論文モデルの購読・解説
テキスト	浜田麻里（他）『論文ワークブック』くろしお出版
成績評価	授業態度、試験結果

・日本事情

授業科目	日本の社会・文化Ａ
担当教員	中矢 礼美
目　　標	日本社会と文化を深く理解することを目的に、日本の社会と文化にみられる特徴的な現象について学生グループで資料検索、発表準備を行う。授業では、発表および討議を行い、不足データや社会学的な見方でのフォローアップを行い、学生はそれをもとに世界的な現象や自国の社会文化との比較考察により日本理解を深める。
内　　容	第１回　オリエンテーション 第２回　日本の社会と文化グループつくりと研究テーマの相談 第３回～第14回　学生グループ発表・討議、ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ（講義） 第15回　日本の社会と文化Aの振り返り
テキスト	参考書は、適宜紹介する。
成績評価	出席、コメント用紙における記述、議論における態度、最終試験20%。さまざまな情報を多角的・複眼的に分析し、議論し、書くことができることを到達目標として、総合的に評価します。

授業科目	日本の社会・文化Ｂ
担当教員	中矢 礼美
目　　標	日本社会と文化を深く理解することを目的に、日本の社会と文化にみられる特徴的な現象を取り上げて紹介し、学生はそれをもとに世界的な現象や自国の社会文化との比較考察や議論を行う。
内　　容	第１回　オリエンテーション（社会学的な見方） 第２回～第８回　　日本人の意識変化 　－家族観、男女の役割、家庭と職業、政治意識、 　　権利意識と教育の関係、宗教意識と教育の関係、経済－ 第９回　震災後の意識の変化 第10回　日本のメディアと社会 第11回　日本のメディアと国際理解 第12回　観光人類学①（日本の村おこし） 第13回　観光人類学②（日本の観光地の見方） 第14回～第15回　学生グループ討議・発表
テキスト	参考書は、適宜紹介する。
成績評価	コメント用紙、学生討議態度

・特定研究

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅰ
担当教員	中川 正弘・田村 泰男・石原 淳也
目　　標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内　　容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション、日本語・日本文化特別講義I～VI、 地域研修I～VI、研修レポート構想発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価	出席・レポート・宿題

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅱ
担当教員	中川 正弘・田村 泰男・石原 淳也
目　　標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内　　容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション 研修レポート構想発表 日本語・日本文化特別講義VII～XII 地域研修VII～XII 研修レポート要旨発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価	出席・レポート・宿題

（霞キャンパス）
・レベル１

授業科目	総合日本語初級ＩＡ・ＩＢ
担当教員	山中 康子・渡部 浩見
目　　標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させ る。
内　　容	ガイダンス、ひらがな、毎日の挨拶、ひらかな練習，自己紹介、カタカナ、疑問表現、かな練習、提示の表現、目的語、日常活動の表現、時間表現、行動予定の表現、完了時制１）、移動の動詞、時の表現、勧誘の動詞、存在の動詞、位置の表現、目的の表現、授受の表現、形容詞、完了時制２）、希望の表現、好悪･程度の表現、比較･最上級、期末試験
テキスト	「Basic Japanese for Students はかせＩ」（スリーエーネットワーク）
成績評価	出席・試験・宿題

・レベル２

授業科目	総合日本語初級ⅡＡ
担当教員	渡部 浩見
目　　標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内　　容	ガイダンス、レベルチェック、初級１の復習、理由の表現、丁寧表現、助数詞、依頼表現、継起的動作、時間・期間の表現、進行中の動作、習慣・家族について話す、許可・禁止の表現、動詞の否定形、経験の表現、助言・提案の表現、スケジュールをメモする、動詞の辞書形、可能表現、趣味を語る、名詞句、意見を述べる、伝言を伝える、普通体の使い方、同時制の従属節、条件・譲歩の従属節、話し言葉の文体、状態の変化、お礼の手紙を書く、期末試験
テキスト	「Basic Japanese for Students はかせⅡ」（スリーエーネットワーク）
成績評価	出席・試験

日本語教育部門：留学生関係科目
（２０１４年４月～２０１５年３月）

田村泰男

１．授業科目一覧
・東広島キャンパス

授　業　科　目	開　設 単位数	学期別週授業時数		受講登録者数	
		前　期	後　期	前　期	後　期
Elementary Japanese I A	2		2		5
Elementary Japanese I B	2		2		5
Elementary Japanese I C	2		2		5
Elementary Japanese I D	2		2		3
Elementary Japanese I E	2		2		
Elementary Japanese II A	2・2	2	2	6	8
Elementary Japanese II B	2・2	2	2	6	8
Elementary Japanese II C	2・2	2	2	6	8
Intermediate Japanese I A	2		2		17
Intermediate Japanese I B	2		2		17
Intermediate Japanese I C	2		2		14
Intermediate Japanese I D	2	2		17	
Intermediate Japanese I E	2	2		17	
Intermediate Japanese I F	2	2		16	
Intermediate Japanese II A	2		2		8
Intermediate Japanese II B	2		2		8
Intermediate Japanese II C	2		2		9
Intermediate Japanese II D	2	2		19	
Intermediate Japanese II E	2	2		19	
Intermediate Japanese II F	2	2		10	

Japanese Education and Culture A	2	2		14	
Japanese Education and Culture B	2		2		13
Advanced Japanese A (Listening)	2	2		5	
Advanced Japanese B (Listening)	2		2		4
Advanced Japanese A (Analysis)	2	2		16	
Advanced Japanese B (Analysis)	2		2		6
Advanced Japanese A (Expression)	2	2		7	
Advanced Japanese B (Expression)	2		2		5
Advanced Japanese A (Lexical)	2	2		18	
Advanced Japanese B (Lexical)	2		2		6
Advanced Japanese A (Cinema)	2	2		5	
Advanced Japanese B (Cinema)	2		2		3
Academic Writing A	2	2		17	
Academic Writing B	2		2		8
Japanese Society and Culture A	2	2		10	
Japanese Society and Culture B	2		2		3

２．授業内容

（東広島キャンパス）
・レベル１

授業科目	Elementary Japanese ＩA・ＩB・ＩC・ＩD
担当教員	石原 淳也・深見 兼孝・堀田　泰司・山中 康子・渡辺 久美
目　　標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内　　容	第1週－第8週 ひらがな、カタカナと日本語の発音、あいさつ、数詞、名詞文、指示詞、時間表現、自動詞文、移動の動詞、他動詞文、斜格助詞、形容詞、目的語+が、存在表現、数量詞、比較、中間試験 第9週－第15週 要求・希望、テ形、許可・禁止、進行、連続した行為、ナイ形、禁止、義務、辞書形、普通形過去、引用、関係節、時を表す従属節、授受動詞、条件節、期末試験
テキスト	「みんなの日本語初級Ｉ　本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価	出席・試験・宿題

・レベル２

授業科目	Elementary Japanese II A・II B・II C
担当教員	恒松 直美
目　　標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内　　容	第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ　本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価	出席・小テスト・宿題・中間期末試験

・レベル３

授業科目	Intermediate Japanese ＩＡ・ＩＢ
担当教員	石原 淳也
目　　標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内　　容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」（白帝社）
成績評価	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese ＩＣ
担当教員	下村 真理子
目　　標	音声教材を用いて、一定の長さの説明文や解説文の聞き取り能力を養うとともに総合的な日本語能力を高める。
内　　容	１）トピックに関するＣＤを聞いて質問に答え、内容を理解する。 ２）スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 ３）内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： もしもし、旗のデザイン、海からの便り、カラスのカー子ちゃん たためるピアノ、日本人と果物、待つ時間・待たせる時間、震度３、 世界の人口、牛丼の作り方、ドライアイ、日本の地方都市、横断歩道、 弁当の日、コンビニ図書館、右回りの時計、目にやさしい色、 上手に泣いて、ストレス解消、阿波踊り、富士山が見えるところ、 アニメ文化の輸出、十二支の話、東京を回る山手線、どんな結婚披露宴がいい？、通話をやめた若者
テキスト	「新・毎日の聞き取り５０日 vol.1」（凡人社）
成績評価	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

授業科目	Intermediate Japanese ＩＤ・ＩＥ
担当教員	石原 淳也
目　　標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内　　容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。 適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」（白帝社）
成績評価	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese ＩＦ
担当教員	下村 真理子
目　　標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内　　容	１）トピックに関するＣＤを聞いて質問に答え、内容を理解する。 ２）スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 ３）内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： いただきます、川を渡る、車は左、人は右？、千羽鶴、合格は誰のおかげ？、時差ぼけ、小判がこわい、道路からメロディー、カラオケ発明者にノーベル賞？、砂糖の消費量、盆栽、駅伝、波力発電、河童、「もったいない」を国際語に！、思いがけない援助、新幹線の顔、ビルの地下の野菜畑、イルカは頭がいい？、留学生文学賞、菜の花プロジェクト、今日は何色のスーツですか、缶コーヒーの値段、あがらないためには、国際宇宙ステーション
テキスト	「新・毎日の聞き取り５０日 vol.2」（凡人社）
成績評価	出席と試験および宿題による評価。

・レベル４

授業科目	Intermediate Japanese II A・II B
担当教員	田村 泰男
目　　標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内　　容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ながら、～まい、～わけだ、～でも、～ほど、～なら、～ても、～てくる、～てしまう、～ながら、～よう、～がる、～ことにする／なる、～とか～とか、～させる、～てたまらない、～たばかり、～ものだ、～てみる、～中、～し～し、～かもしれません、～つもり、～くらい、～なければならない、～まま、～ようとしない、～たものだ、～から～にかけて、～ものの、～やら～やら、～につれて、～ば～ほど、～として、～によって、～ところ、～にとって、～はずだ、～さえ、～うちに、～はずがない
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」（研究社）
成績評価	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II C
担当教員	坂田 光美
目　　標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内　　容	教材を聴く前に先ず、 (1)イラストによって、教材の内容を概観する。 (2)関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3)教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4)タスクに答える。 (5)話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6)語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7)音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 上」（凡人社）
成績評価	試験、出席、課題

授業科目	Intermediate Japanese II D・II E
担当教員	田村 泰男
目　　標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内　　容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。 授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～という、～に基づく～、～と同時に、～による、～際、～にかけて、 ～さえ、～なんて、こと、～を問わず、～ をめぐって、～ところ、～向き、 ～向け、～における、～上、～うえで、～なり、Ｖ たN、～という点、 ～にかかわる、～をもたらす、～に対して／～ にとって、～ばかり／～だけ、 ～を通して／～を通じて、～ぶり、～とはいえ、～当たり、たとえ～も、 ～やら～やら、～に関する～、～限り、～がち、～っぽなし、～以上、 ～抜きの～、～おかげで／～せいで、～にもかかわらず、～につれて、 ～に例える、～に違いない、～得ない／～得る、～っぽい、～にしても、 ～つつ、～めく、～かのように、～結果、～に比べて、もの
テキスト	「中級を学ぼう　日本語の文型と表現８２」（ｽﾘｰｴｰﾈｯﾄﾜｰｸ）
成績評価	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II F
担当教員	坂田 光美
目　　標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内　　容	教材を聴く前に先ず、 (1)イラストによって、教材の内容を概観する。 (2)関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3)教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4)タスクに答える。 (5)話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6)語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7)音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 下」（凡人社）
成績評価	中間試験、期末試験、及び出席状況を考慮して評価する。

授業科目	Japanese Education and Culture A
担当教員	中矢 礼美
目　　標	日本社会と文化を深く理解することを目的に、日本の社会と文化にみられる特徴的な現象について学生グループで資料検索、発表準備を行う。授業では、発表および討議を行い、不足データや社会学的な見方でのフォローアップを行い、学生はそれをもとに世界的な現象や自国の社会文化との比較考察により日本理解を深める。
内　　容	第１回　オリエンテーション 第２回　日本の社会と文化グループつくりと研究テーマの相談 第３回～第14回　学生グループ発表・討議、ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ（講義） 第15回　日本の社会と文化Aの振り返り
テキスト	参考書は、適宜紹介する。
成績評価	出席、コメント用紙における記述、議論における態度、最終試験20%。 さまざまな情報を多角的・複眼的に分析し、議論し、書くことができることを到達目標として、総合的に評価します。

授業科目	Japanese Education and Culture B
担当教員	中矢 礼美
目　　標	日本社会と文化を深く理解することを目的に、日本の社会と文化にみられる特徴的な現象を取り上げて紹介し、学生はそれをもとに世界的な現象や自国の社会文化との比較考察や議論を行う。
内　　容	第１回　オリエンテーション（社会学的な見方） 第２回～第８回　　日本人の意識変化 　－家族観、男女の役割、家庭と職業、政治意識、 　　権利意識と教育の関係、宗教意識と教育の関係、経済－ 第９回　震災後の意識の変化 第10回　日本のメディアと社会 第11回　日本のメディアと国際理解 第12回　観光人類学①（日本の村おこし） 第13回　観光人類学②（日本の観光地の見方） 第14回～第15回　学生グループ討議・発表
テキスト	参考書は、適宜紹介する。
成績評価	コメント用紙、学生討議態度

・レベル５

授業科目	Advanced Japanese A (Listening)
担当教員	深見 兼孝
目　　標	講演の日本語の内容を聞き取る能力を身につける。
内　　容	第1回　導入。寝ているとき 第2回～第4回　昨日の私と今日の私 第5回～第6回　りんご　　第7回　情報化社会 第8回　個性的であること 第9回～第10回　話せばわかる 第11回　伝統芸能　　第12回～第14回　子育て 第15回　地方と都会 各回とも、語句のチェック、聞き取り練習、スクリプトによる確認の順で授業を進める。
テキスト	CD『養老孟司が語る「わかる」ということ』
成績評価	試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。

授業科目	Advanced Japanese B (Listening)
担当教員	深見 兼孝
目　　標	ラジオドラマの日本語を聞き取る力を養成する。
内　　容	第1回～第4回　出会い 第5回～第7回　江夏 第8回～第10回　野球場 第11回　再会 第12回～第14回　プレゼント 第15回　エピローグ 各回とも、語句のチェック、聞き取り練習、スクリプトによる確認の順で授業を進める。
テキスト	『ラジオドラマCD博士の愛した数式』
成績評価	試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。

授業科目	Advanced Japanese A (Analysis)
担当教員	中川 正弘
目　　標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内　　容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。 前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese B (Analysis)
担当教員	中川 正弘
目　　標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内　　容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。 後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese A (Expression)
担当教員	浮田 三郎
目　　標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内　　容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。 テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 諺の表現法　2. 親と子　3. 夫婦　4. 恋愛 5. 油断と用心　6. 欲　7. 酒　8. 友　9. 秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（１９８２年）等
成績評価	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	Advanced Japanese B (Expression)
担当教員	浮田 三郎
目　　標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内　　容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 睡眠　2. 病気　3. 生死　4. 季節　5. 天候 6. 学者　7. 教育　8. 義理　9. 動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（１９８２年）等
成績評価	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	Advanced Japanese A (Lexical)
担当教員	田村 泰男
目　　標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内　　容	1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喩表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese B (Lexical)
担当教員	田村 泰男
目　　標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内　　容	1. 特別な読み方をする漢字 2. 送り仮名によって読み方の違う漢字 3. 読み方が二通りある漢字熟語 4. 国字　5. 畳語　6. 類義語・類意表現 7. 若者語　8. 外来語　9. 接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese A (Cinema)
担当教員	石原 淳也
目　　標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ることを目標とする。
内　　容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価	出席・授業態度・レポート

授業科目	Advanced Japanese B (Cinema)
担当教員	石原 淳也
目　　標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ることを目標とする。
内　　容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価	出席・授業態度・レポート

授業科目	Academic Writing A
担当教員	中矢 礼美
目　　標	大学の講義を受講したり、研究活動を行ったりするのに必要な高度な日本語の運用能力を身につける。学術的なテーマについて、日本語による討議、発表、レポート・論文作成ができる能力を育成する。
内　　容	第1回 レポートの文体　第2回 課題の提示 第3回 目的の提示　第4回 定義と分類 第5回 図表の提示　第6回 変化の形容 第7回 対比と比較　第8回 原因の考察 第9回 列挙　第10回 引用 第11回 同意と反論　第12回 帰結 第13回 結論の提示　第14回 文型・表現 第15回 日本語論文モデルの購読・解説
テキスト	『留学生の日本語④論文作成編』
成績評価	授業態度、試験結果

授業科目	Academic Writing B
担当教員	中矢 礼美
目　　標	大学の講義を受講したり、研究活動を行ったりするのに必要な高度な日本語の運用能力を身につける。学術的なテーマについて、日本語による討議、発表、レポート・論文作成ができる能力を育成する。
内　　容	第1回 レポートの文体　第2回 課題の提示 第3回 目的の提示　第4回 定義と分類 第5回 図表の提示　第6回 変化の形容 第7回 対比と比較　第8回 原因の考察 第9回 列挙　第10回 引用 第11回 同意と反論　第12回 帰結 第13回 結論の提示　第14回 文型・表現 第15回 日本語論文モデルの購読・解説
テキスト	浜田麻里（他）『論文ワークブック』くろしお出版
成績評価	授業態度、試験結果

・日本事情

授業科目	Japanese Society and Culture A
担当教員	中矢 礼美
目　　標	日本社会と文化を深く理解することを目的に、日本の社会と文化にみられる特徴的な現象について学生グループで資料検索、発表準備を行う。授業では、発表および討議を行い、不足データや社会学的な見方でのフォローアップを行い、学生はそれをもとに世界的な現象や自国の社会文化との比較考察により日本理解を深める。
内　　容	第１回　オリエンテーション 第２回　日本の社会と文化グループつくりと研究テーマの相談 第３回～第14回　学生グループ発表・討議、ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ（講義） 第15回　日本の社会と文化Aの振り返り
テキスト	参考書は、適宜紹介する。
成績評価	出席、コメント用紙における記述、議論における態度、最終試験20%。さまざまな情報を多角的・複眼的に分析し、議論し、書くことができることを到達目標として、総合的に評価します。

授業科目	Japanese Society and Culture B
担当教員	中矢 礼美
目　　標	日本社会と文化を深く理解することを目的に、日本の社会と文化にみられる特徴的な現象を取り上げて紹介し、学生はそれをもとに世界的な現象や自国の社会文化との比較考察や議論を行う。
内　　容	第１回　オリエンテーション（社会学的な見方） 第２回～第８回　　日本人の意識変化 　－家族観、男女の役割、家庭と職業、政治意識、 　　権利意識と教育の関係、宗教意識と教育の関係、経済－ 第９回　震災後の意識の変化 第10回　日本のメディアと社会 第11回　日本のメディアと国際理解 第12回　観光人類学①（日本の村おこし） 第13回　観光人類学②（日本の観光地の見方） 第14回～第15回　学生グループ討議・発表
テキスト	参考書は、適宜紹介する。
成績評価	コメント用紙、学生討議態度

第 29 期（2013 － 2014）
日本語・日本文化研修プログラム

石原淳也

＜プログラム概要＞

本プログラムは、本国際センター（2010 年に旧留学生センターから改組）で受け入れる大使館推薦による「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を中心に、部局間協定に基づき教育学部で受け入れられている「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を対象に加え、国際センターの四人の教員からなる「日本語・日本文化研修プログラム実施委員会」により運営され、(1) 全学の留学生向けの「日本語・日本事情」で開設されているクラスから選択履修する「日本語研修」、(2) 学内、学外の講師による特別講義および文化施設・文化財等の見学などからなる「日本語・日本文化特別研究 I, II」、そして (3) 指導教員のもとでの「個別指導および課題研究」の三つの内容により構成されている。

研修生は「個別指導および課題研究」での研究経過を「日本語・日本文化特別研究 I, II」の時間中に構想発表および中間発表として発表するとともに、修了式の前に行われる研修成果発表会においてその研究の成果を発表し、指導教員と国際センターにレポートを提出する。国際センターでは毎年これらをまとめて研修レポート集として刊行している。

＜受け入れ学生の概要＞

第 29 期は国際センター受入のインド２名、ベトナム３名、インドネシア２名、モンゴル、カナダ、アメリカ、クロアチア、スロバキア、トルクメニスタンからの学生それぞれ１名、部局間協定に基づく教育学部受け入れのニュージーランドからの学生が１名、JASSO の交換留学生として文学部受け入れのインドネシアからの学生が１名の計１５名でプログラムを実施した。

＜特別講義等＞

2013 年度（第 29 期）日本語・日本文化特別研究、および、その他の行事は、以下の通りである。

			（担当者）
10 月			
	4 日	プレイスメントテスト	
		オリエンテーション(センターK213)	中川
	8 日	開講式	
	12 日	プレイスメントテスト 2	石原
	18 日	広島見学１（広島城・平和公園）	石原
	25 日	特別講義「音声学」	石原
11 月			
	1 日	広島見学２（現代美術館ほか/ホストファミリー対面）	中川
	8 日	特別講義「現代日本語の語彙 I」	田村
	15 日	特別講義「現代日本語の語彙 II」	田村
	22 日	特別講義「世界の平和教育」	中矢
	29 日	宮島見学	石原
12 月			
	6 日	特別講義「現代日本語の語彙 III」	田村
	13 日	特別講義「俳句入門」	浮田
	20 日	特別講義「日本語と文体」	中川
1 月			
	10 日	特別講義「インド仏教と日本文化」	本田
	17 日	特別講義「日本社会とジェンダー」	恒松
	24 日	特別講義「社会言語学」	永田
2 月			
	7 日	マツダ見学	石原
3 月			
	26-27 日	瀬戸内海しまなみ研修ツアー	中川

4 月

4 日	プレイスメントテスト	
11 日	オリエンテーション２	中川
18 日	研修レポート構想発表 1/2	石原
25 日	研修レポート構想発表 2/2	石原

5 月

9 日	特別講義「沖縄のことば」	多和田
16 日	尾道見学	田村
23 日	特別講義「日本の高等教育の国際化と市場化」	中矢
30 日	特別講義「古事記と日本神話」	石原

6 月

6 日	特別講義「比較言語文化論の視点」	浮田
13 日	呉見学：大和ミュージアム他	中川
20 日	特別講義「日本語と文体 2」	中川
28 日	ホームステイ協会交流会	中川

7 月

4 日	サタケ見学	中川
11 日	研修レポート中間発表 1/2	石原
18 日	研修レポート中間発表 2/2	石原
25-26 日	松江・出雲見学旅行	石原

9 月

8 日	研修成果発表会、修了式

第 15 期　平成 26 年度（2014 年度）
日韓共同理工系学部留学生事業入学前予備教育

石原淳也

平成 10 年 10 月の「日韓共同宣言」、平成 12 年 8 月に文部省より通知のあった「日韓共同理工系学部留学生事業実施要項」、同年 8 月に決定された「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施要項および「広島大学日韓理工系学部留学生事業」入学前予備教育実施要項に基づき、平成 12 年 11 月より広島大学においても学部入学前予備教育生に対する「広島大学日韓理工系学部留学生事業」の予備教育が開始された。以来、平成 15 年度まで各 5 名ずつ、平成 16 年度 2 名、17 年度 5 名、18 年度 4 名、19 年度、20 年度は 5 名、21 年度 2 名，22 年度 5 名、23 年度 5 名、24 年度は 6 名と途切れることなく学部入学前予備教育生を受け入れ、25 年度に続き 26 年度も 7 名の予備教育生を受け入れることとなった。

旧留学生センターは同事業の立ち上げ段階である平成 12 年 6 月の「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」ワーキンググループの発足段階から同事業の予備教育実施機関として中心的な役割を果たしてきた。法人化による国際交流委員会の廃止で、平成 16 年度より 21 年度まで「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会は留学生センター運営委員会のもとに組織されてきたが、22 年度からは、旧留学生センターの改組に伴い、留学生センター運営委員会が廃止されたため、「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会は国際センター長を部会長として国際センターの下に組織されている。国際センター（旧留学生センター）からはセンター長のほか、石原准教授が委員・副部会長として部会に参加している。

本事業において国際センターは

1. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」実施部会への参加
2. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の実施
3. 学部入学前予備教育生に対する修学上・生活上の指導・助言
4. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の計画策定
5. 見学引率
6. 日本語教育謝金講師の指導・サポート
7. その他謝金講師のサポート
8. 学生チューターの指導

等の業務を行っている。

本学で実施する予備教育について

・日本語科目

平成 15 年度までは、入学前予備教育において、日韓共同理工系学部留学生用に特別の日本語教育を実施していたが、平成16年度からは全学の留学生に向け開講されている「日本語・日本事情」を履修させることとなった。また、以前は、学生の日本語能力に合わせ、レベル３，４を履修させていたが、22 年度からレベル４，５を履修させることとなった。しかしながら、レベル４で使用されている教科書が、韓国国内で行われている予備教育の前半課程において開講されている一部の日本語の授業で使われていることから、25 年度より、本予備教育生のためだけにレベル４相当の授業を二コマ１０週にわたって開講することとなった。なお、従来より、学生の日本語能力の差にきめ細かく目配りできるよう、本予備教育生のみを対象とした日本語会話、日本語作文、日韓文化論を各 1 コマ開設している。

・専門科目

本学では第一期から、日本語とともに、数学，物理、化学に加え、学生が生物系に進学する可能性がある場合は生物も含めた理系科目を開設している。以前は、大学院生を講師に、大学入試レベルの問題演習を通して、入学後、日本語で実施される授業に十分ついて行けるだけの基本的な学力、授業を理解するのに最低限必要な日本語力を身につけさせるというものであったが、23 年度からは、広島大学マスターズという広大を退職された先生方の団体に講師を依頼することになり、授業内容も従来からの問題演習中心のものではなく、大学入学後、教養教育で行われる授業の基本的な内容を先取りし、講義の形で行うものとなっている。

また、英語に関しては外国語教育センターの全学向け「英語研修プログラム」から自分にあったものを選び、一コマ受講するようになっている。

なお、本 26 年度における時間割、行事は次ページの通り。

時間割

	月	火	水	木	金
1					日本語会話 坂田
2	数学 今岡	日本の社会・文化 B 中矢	化学 谷本・平田	日本語中級 B 尾形	日韓比較文化論 坂田
3		生物 渡辺、設楽、桝井	映像日本語 特別演習 B 石原	物理 米倉・山下	日本語作文 坂田
4	日本語聴解 特別演習 B 深見	日本語中級 A 松村		日本語分析 特別演習 B 中川	
5	英語(1 コマ)				

行事

	期間	行事等	見学（金曜）	備考
W0	10/1-10/4	1 渡日 3プレイスメントテスト		
W1	10/5-10/11	7オリエンテーション 8(午後)開講式 9 授業開始		
W2	10/12-10/18	13 体育の日	終日　広島見学(広島城・平和公園)	月なし
W3	10/19-10/25			
W4	10/26-11/1			
W5	11/2-11/8	3 文化の日		月なし
W6	11/9-11/15			
W7	11/16-11/22	23 勤労感謝の日 24 振替休日		月なし
W8	11/23-11/29		終日　宮島見学	
W9	11/30-12/6			
W10	12/7-12/13			
W11	12/14-12/20			
		23 天皇誕生日　冬休み(12/23-1/5)		
W12	1/6-1/10			
W13	1/11-1/17	12 成人の日		月なし
W14	1/18-1/24			
W15	1/25-1/31	専門科目終了		
W16	2/1-2/7		マツダ見学	
W17	2/8-2/10	11 建国記念日		
		春休み（2/11-　）		
	3 月中下旬	3/25 修了式		

平成 26 年度留学生支援にかかる活動報告

中矢礼美

本年度の主な活動は、次の４点である。１）留学生修学相談、２）留学生オリエンテーション、３）留学生支援ネットワークおよび全学留学生等支援部会、４）留学生支援調査。

以下、本年の活動および今後の課題について列記していく。

１．留学生修学相談

本年度の修学相談件は、延べ 52 回であり（メイルでの相談 10 回を含む)、相談来室者は 13 人であった。相談の内容は、研究室のミスマッチ（指導教員による過剰なタスクの押し付け、研究テーマに同意が得られない等)、指導教員や研究室の学生との人間関係問題（無視、嫌がらせ、不公平な扱い)、指導教員のアカデミックハラスメント（教員の授業の準備の強制や留学生の研究内容の無断での使用)、進路相談（日本語能力不足を感じての休学・日本語専門学校への編入、他大学への進学、就職活動について)、研究内容についてのアドバス（研究の方法論について）であった。

生活相談（市役所関係、家族の保育園、家族の呼び寄せ）や事務との英語による意思疎通問題からのミスコミュニケーションのフォローなどは、ほとんどなくなった。国際交流部門の機能や各部局での留学生担当の機能が高まっていると推測する。

その他、留学生を指導する教員からの相談も延べ 5 回あった（来室相談者は１人)。相談内容は、留学生の修学態度に問題があり、約束を守らないことが多く信頼関係を持てないことであった。指導教員の移動に伴う留学生の指導教員の変更の際の問題もあり、複数教員による実質的な指導体制の構築が望まれる。

２．各種オリエンテーション

１）新渡日留学生オリエンテーション

昨年度と同様に、来日直後に全学の新渡日留学生を対象として前期、後期それぞれ２回（うち１回は霞キャンパス）実施した。オリエンテーションでは、留学生支援ネットワークのメンバーを中心に、それぞれの担当（修学、ビザ・宿舎、生活・交流、健康、ハラスメント、就職活動、図書館など）について説明を行った。

オリエンテーションは、英語会場と中国語会場に分けて同時開催したが、中国語会場では通訳（中国人留学生による）を行うため、時間が非常にかかってしまうという課題がある。また、学外の関係諸機関による説明（警察署、広島県国際センター）も行われ

たが、打ち合わせが十分でなかったために、時間超過や伝達内容および方法に問題がみられた。留学生に直近の問題やサービス提供に焦点を当てた説明を今後求める必要がある。

オリエンテーションに参加しなかった留学生に対しては、各部局の担当事務を通して、大学 HP もみじにおける「留学生サポート」に掲載している資料をダウンロードして読んでおくように伝えてもらうこととした。

２）NOIE オリエンテーション

年に 2 回、新しく入学した留学生を中心に NOIE（国際交流ネットワーク）への登録を呼びかけている。登録後は、学校での国際理解事業に参加したい学生に対してオリエンテーションを行った。特に東広島市教育委員会との連携で行っている小中学校における国際理解事業に参加してもらうにあたっては、事前に市教育委員会の担当指導主事の方と打ち合わせを行った上で、日本における国際理解教育および活動の際の留意点について説明を行った。説明に参加した留学生リストは市教育委員会に伝え、優先的に参加する機会を与えることとしている。

３．留学生支援ネットワーク連絡会および全学留学生等支援部会

１）留学生支援ネットワーク連絡会

本年度は連絡会を５回開催した。議論の内容は、各種オリエンテーションの内容および方法、留学生支援調査票の作成・分析・提言作成、多様な留学生相談事例の報告と諸課題を解決するためのシステム提案や今後の対応についての相談などである。

連絡会での情報共有や調査および提言などはそれぞれ非常に有意義なものであり、この連絡会をコアとして次項の広島大学全学留学生等支援部会も成り立っており、広島大学の留学生支援体制の拡充のために重要な役割を担っている。ただし、課題も残っている。まず連絡会での議題や提案を支援部会でも議論し、大学に対する要望としてまとめても、その後のルートが不確かなことである。今後、連絡会および支援部会の位置づけについてより明確にしていく必要がある。

２）広島大学全学留学生等支援部会

支援部会は、下記の通り、2 回実施した。

＜第１回広島大学全学留学生等支援部会＞

日時　：2014 年 9 月 16 日（火）　11:00～12:00

場所　：東広島キャンパス　学生プラザ 4F 多目的室 1-2

：霞キャンパス　　医工連携棟打合せ室（テレビ会議）

参加者：東広島キャンパス２６名

：霞キャンパス２名

報告：１．　平成 25 年度広島大学留学生の学習と生活に対する支援調査結果概要および対応報告

２．チューター制度の見直し

議題：１．留学生支援に関する HP について

２．新入留学生オリエンテーションについて

＜第２回広島大学全学留学生等支援部会＞

現状報告及び情報共有およびグループワークを実施した。

(1)　講義

① 留学生支援調査結果報告（自由記述箇所等）

② 入国管理審査について

③ 各部局の対応策について情報共有

(2)　グループワーク（5 人程度のグループ）

① 事例 1）学生の引きこもりについて

② 事例 2）指導教員とのミスマッチについて

③ まとめ（共有）

４．留学生支援調査

別資料１にて、概要を報告する。以下は、支援調査結果を下に学長に報告するために留学生支援ネットワークで作成した提言である。

2014 年度留学生支援調査結果報告ならびに改善に向けての提言

留学生支援ネットワーク

本提言は、平成 26 年 12 月に実施した本学の留学生対象のアンケート調査「広島大学留学生の学習と生活に対する支援調査」(別資料) の結果を踏まえ、3 点にまとめている。本調査は、留学生支援ネットワークのメンバーによって作成し、調査票は、全留学生 1157 名に配布した。回収数は 608、回収率は 53.0%と 2003 年以降の調査の中で最も高い比率となっている。

提言１　留学生と指導教員・研究室のマッチングのプロセスを適正化するシステムを確立する（例：事前の複数回相談、チェックリスト作成・活用、専攻ごとの受け入れ協議など）

提言根拠：大学入学前の指導教員との相談について、「決まっていなかったので、相談していない」という回答が 44 名存在し、「受け入れ願いと書類を送った後は、何も相談していない」という回答も 113 名と非常に多い（資料 p11、図. 3.5）。在籍年数 1 年未満の新入学生を見ても、235 人中 18 人が「相談していない」、38 人が「受け入れ願いと書類を送った後は、何も相談していない」と依然として多い（資料　新規留学生、p.3、図 3.5）。

現状説明：研究室および指導教員とのミスマッチは、留学生からの修学相談の中で最も大きな問題となっており、その予防のためには事前の相談が不可欠である。留学生は、受け入れ願いと研究計画書を提出し、受け入れが認められた時点で、指導教員は全面的に自分の研究計画を受け入れてくれていると考える。その一方で、指導教員側は、具体的な研究計画や研究室活動（共同研究や研究室方針）は「来てからの話し」と考えている場合がある。相互不理解が入学時から始まっている可能性が高く、受け入れ前の複数回の相談（確認）が必要である（資料 p.19、自由記述）。

提言２　日本語学習希望者へのフォロー

提言根拠：留学生が大学を選んだ理由は、「友人・知人からの紹介」が 237 人と多く（資料 p.10、図 3.3）、広島大学卒業生および在籍留学生の満足度が大きく影響していることが分かる。しかし、在籍者の満足度を図る指標の中で「授業の内容は分かりやすい」は 3.76（5 段階評価の平均値）と、満足度指標の中で「カリキュラム（3.75）」に次いで低い数値となっている（資料 p17、表 3.）。その理由として、日本語での講義・授業の理解について「全くできない」は 27%、「あまりできない」は 12%と、約 4 割の留学生が言語問題で授業が理解できていない（資料 p 4、図 2.1）。国際センターによる日本語授業を受講したいが、受講できない理由として 190 人が「スケジュールが合わない」と回答しており（資料 p. 9 、図 2.7）、フォローが必要である。

提言３　大学 HP における情報の整理と英語版情報の充実

提言根拠：指導教員を知ったのはホームページであると回答する留学生は 266 人(資料 p11, 3.4)であり、ミスマッチを防ぐためにも研究者総覧の英語版が必須である。また、現在困っていることは、経済的なこと（262 人）に次いで、学習や研究のことが 230 人、言葉や習慣が 228 人と多かった(資料 p.12, 図 4.1)。しかし、学生相談窓口を知らないとする留学生も依然多く(資料 p.13、図 4.3)、サポー

ト体制の周知徹底、支援情報の整理が必要である。また日本語の教科書レベルを読めない学生は 40%（p. 4 、図 2.1-1）おり、大学 HP の英語版の充実が必須である。「広島大学 Website から必要な情報は収集しやすい」という質問では、3.86（5 段階評価での平均値）と芳しくない（p.17）。

資料 1
平成 26 年度
広島大学留学生の学習と生活に対する支援調査結果概要報告

はじめに

本報告は、平成 26 年 12 月に実施した本学の留学生対象のアンケート調査「広島大学留学生の学習と生活に対する支援調査」の結果を集約・分析したものである。

広島大学には 1000 人以上の留学生が在籍しており、彼らが直面する生活・修学上の多様な課題を解決すべく、留学生支援ネットワークは毎月連絡会議を開催し、また各セメスターに一度は全学の留学生支援担当者会議を開催して、情報共有および支援体制の構築に努めている。そこで議論される対象は多岐にわたり、効果的効率的な留学生支援のためには状況把握が重要であるという共通認識のもと、今年度も留学生に対する支援調査を実施することとなった。

本調査の内容および構成は、留学生支援ネットワークのメンバーによって作成され、調査票は国際センター国際交流グループより全留学生に配布された。

平成 26 年度の留学生支援ネットワークメンバーは以下のとおりである。

中矢　礼美　　国際センター国際教育部門　准教授
横山　美栄子　ハラスメント相談室　教授
北仲　千里　　ハラスメント相談室　准教授
岡本　百合　　保健管理センター　准教授
小島　奈々恵　保健管理センター　研究員
田中　孝憲　　キャリア支援グループ　主査
大山　文望　　キャリア支援グループ
宮　　秀貴　　学生生活支援グループ　主査
梅下　健一郎　国際センター国際交流部門　副グループリーダー
桑原　晶子　　国際センター国際交流部門

なお、集計および報告書作成にあたっては、教育学研究科の田崎優里さん、戸谷彰宏さんに大変お世話になりました。

Ⅰ. アンケートの調査方法と内容

アンケート調査票は広島大学に在籍する全留学生 1,157 名を対象とし、所属部局より直接あるいは指導教員を経由して配布した。回答は、学内便にて回収を行い、回収数は 608 であった。回収率は 53%と、2003 年以降の調査の中で最も高い比率となった。アンケート調査紙は日本語と英語を併記した。

アンケートは昨年とほぼ同じ項目を用いている。内容は 5 つに分かれており、1)一般的

な質問、2)コミュニケーション言語および学習について、3)広島大学と指導教員について、4)留学生支援について、5)留学生による生活・修学に対する満足度について、である。

回答は、複数選択式、5 点法のリカートスケール方式など、選択式を採用した。ただし、より具体的な意見を汲み取るために自由記述欄も設けた。

回答者は、質問によって異なっていること、一部の質問に回答していないなどの無回答などもあるために、質問によって全回答者数に違いがある。

Ⅱ. 統計分析の方法について

データはすべて統計的に処理されており、ここに掲載した検定結果は分散分析の結果である。分散分析は理系と文系の研究科に所属する学生の間での違いとして行っている。尚、ここでは留学生の自己判断により理系文系を区別している。

Ⅲ.アンケート調査結果の分析

分析結果は、全留学生の分析、新規留学生の分析、霞キャンパス学生の分析の 3 部となっている。

＜全留学生の分析＞

１．一般的な質問

1.1 性別（有効回答 606）

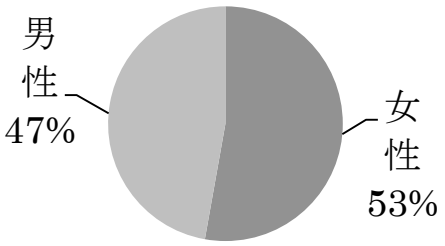

図1.1　性別

1.2 年齢（有効回答 607）

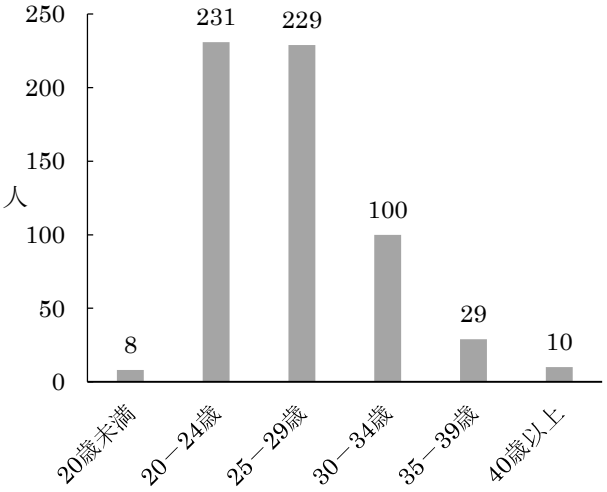

図1.2 年齢

1.3　出身国・地域（有効回答 604）

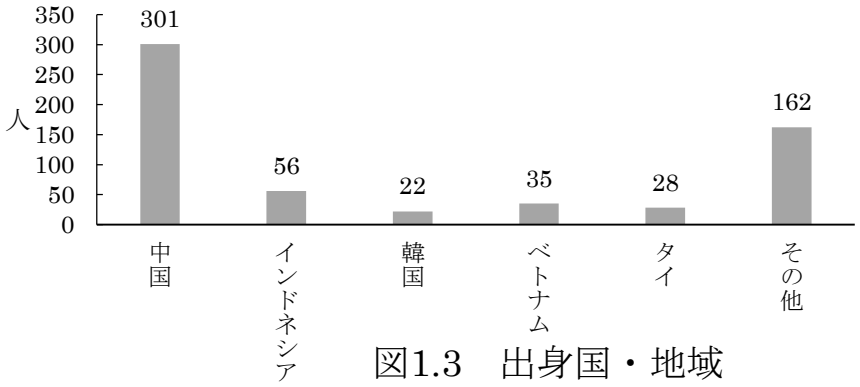

図1.3　出身国・地域

1.4　学籍（有効回答 606）

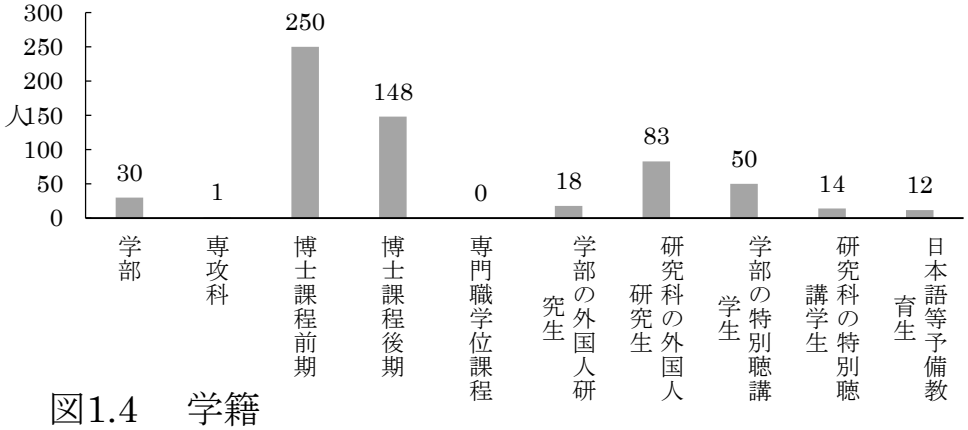

図1.4　学籍

1.5　所属（有効回答 607）

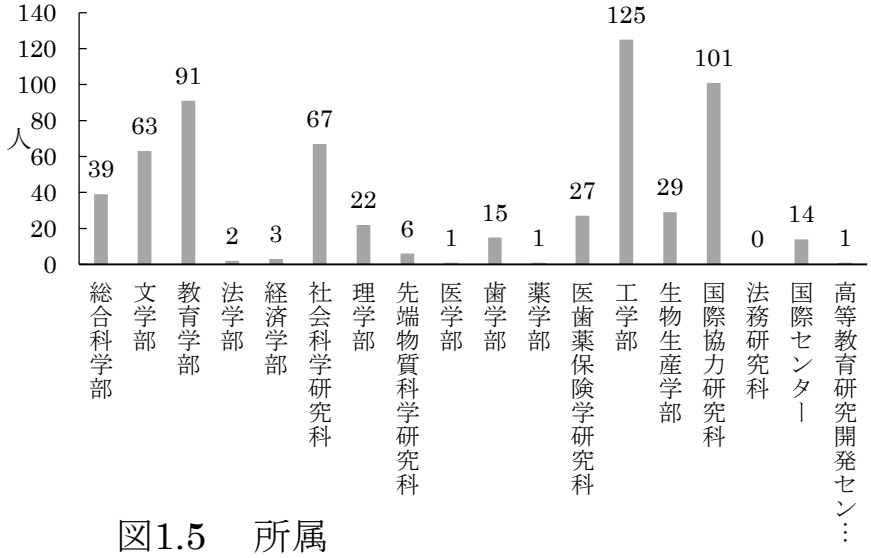

図1.5　所属

1.6　私費・国費（有効回答 593）

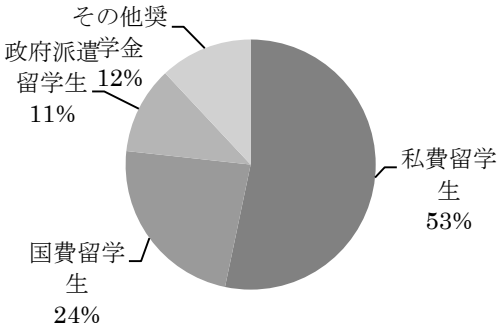

図1.6　私費・国費

1.7　専門（有効回答 593）

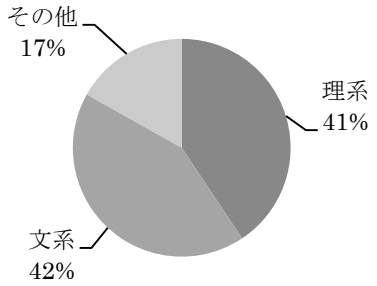

図1.7　専門

1.8　広島大学での在籍年数（有効回答 606）

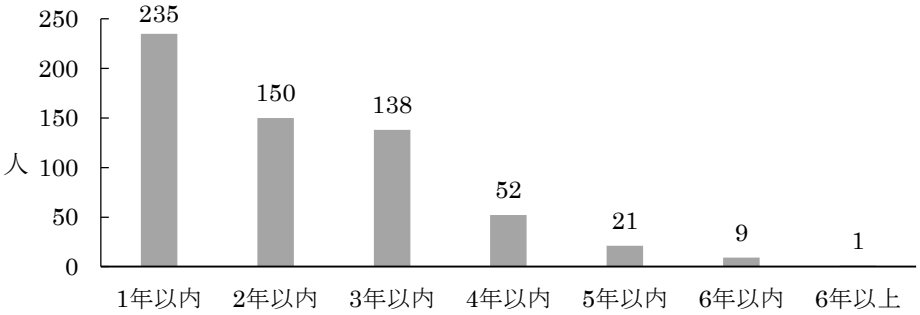

図1.8　広島大学での在籍年数

2. コミュニケーション言語と学習について

2.1 あなたの日本語能力はどのくらいですか？

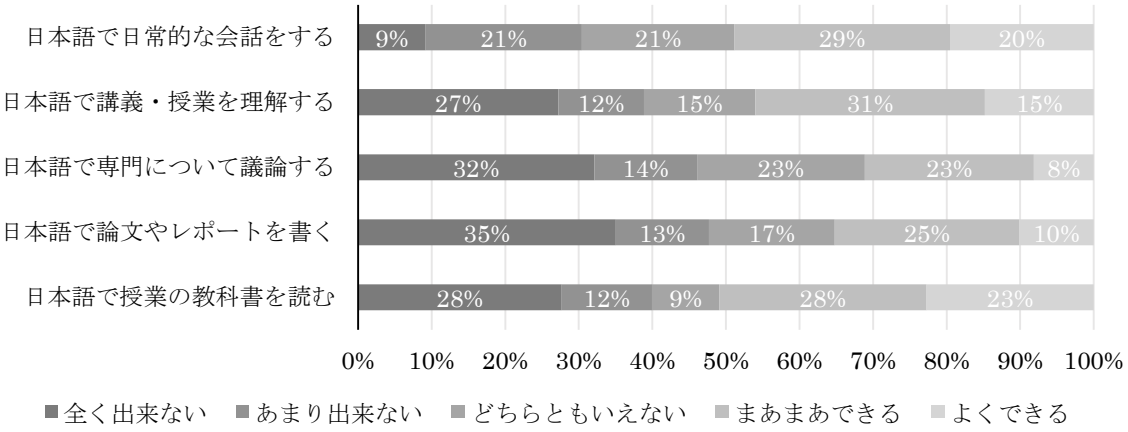

図2.1 - 1　日本語能力

2.2 あなたの英語能力はどのくらいですか？

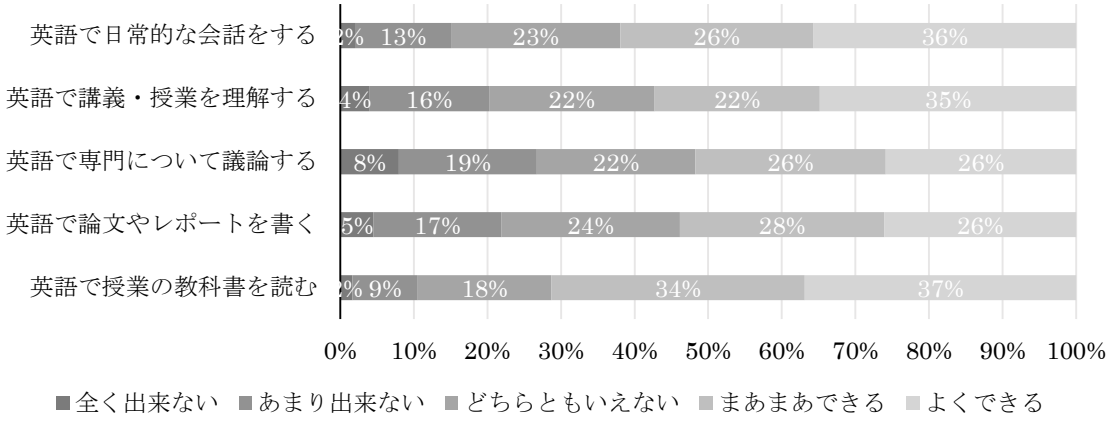

図2.2 - 1　英語能力

日本語能力および英語能力について、それぞれ項目ごとの平均得点の専門による違いを見るために専門 2(文系・理系)×項目 5 の 2 要因分散分析を行った結果、それぞれ専門×項目の交互作用が有意であった。項目ごとに専門の単純主効果の検定を行ったところ、すべての項目について理系・文系による有意な差が認められた。日本語能力については、理系の学生に比べて文系の学生がすべての側面において高い日本語能力を持つという結果が得られた。英語能力については 、文系の学生に比べて理系の学生がすべての側面において高い英語能力を持つという結果が得られた。

表1. 日本語能力, 英語能力における分散分析表

	df (要因)	df (誤差)	F値	p値	η_p^2	多重比較
日本語能力						
専門	1	485	243.5	.00 **	.334	文系＞理系
項目	3.5	1680.5	138.0	.00 **	.222	e＞a＞d＞b＞c
専門×項目	3.5	1680.5	31.7	.00 **	.061	
英語能力						
専門	1	486	176.4	.00 **	.266	理系＞文系
項目	3.6	1754.8	110.9	.00 **	.186	a＞e＞d＞b＞c
専門×項目	3.6	1754.8	18.9	.00 **	.038	

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

表2. 項目ごとの専門の単純主効果

	差得点(標準誤差) (理系－文系)	df	t値	調整p値	d[95%CI]
日本語能力					
授業の教科書を読む	-1.8 (0.1)	2425	-16.9	.000 **	-3.4 [-3.7,-3.2]
論文やレポートを書く	-1.7 (0.1)	2425	-16.0	.000 **	-3.2 [-3.5,-3.0]
専門について議論する	-1.4 (0.1)	2425	-13.2	.000 **	-2.7 [-3.0,-2.4]
講義・授業を理解する	-1.6 (0.1)	2425	-15.0	.000 **	-3.1 [-3.3,-2.8]
日常的な会話	-1.1 (0.1)	2425	-10.6	.000 **	-2.2 [-2.4,-1.9]
英語能力					
授業の教科書を読む	0.9 (0.1)	2430	9.3	.000 **	1.9 [1.7, 2.1]
論文やレポートを書く	1.3 (0.1)	2430	13.8	.000 **	2.8 [2.6, 3.0]
専門について議論する	1.3 (0.1)	2430	14.3	.000 **	2.9 [2.6, 3.2]
講義・授業を理解する	1.1 (0.1)	2430	11.9	.000 **	2.4 [2.2, 2.6]
日常的な会話	1.0 (0.1)	2430	10.7	.000 **	2.2 [.20, 2.4]

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

※エラーバーは標準誤差

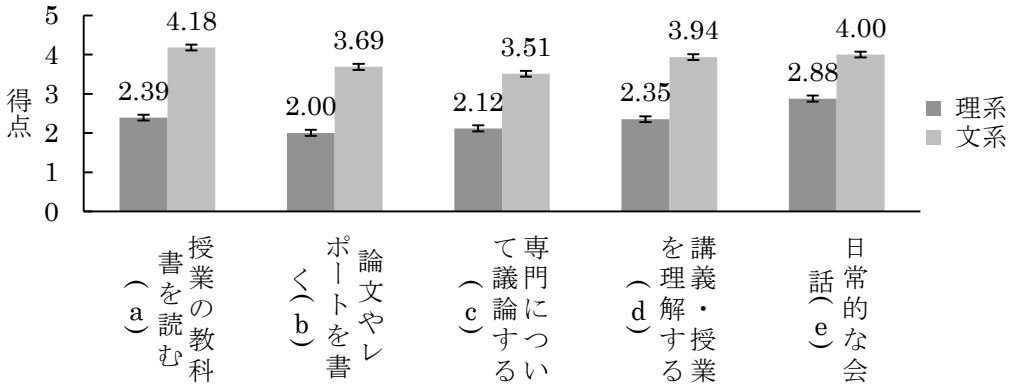

図2.1 - 2　日本語能力についての分散分析結果

※エラーバーは標準誤差

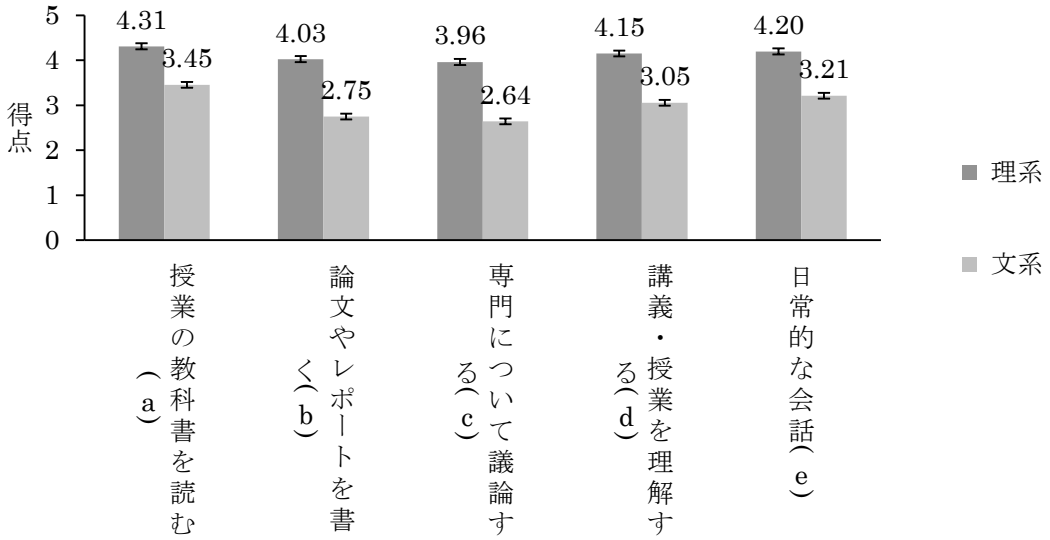

図2.2 - 2　英語能力についての分散分析結果

2.3 あなたは、論文の読み書きでおもにどの言語を使いますか？(回答数 592)

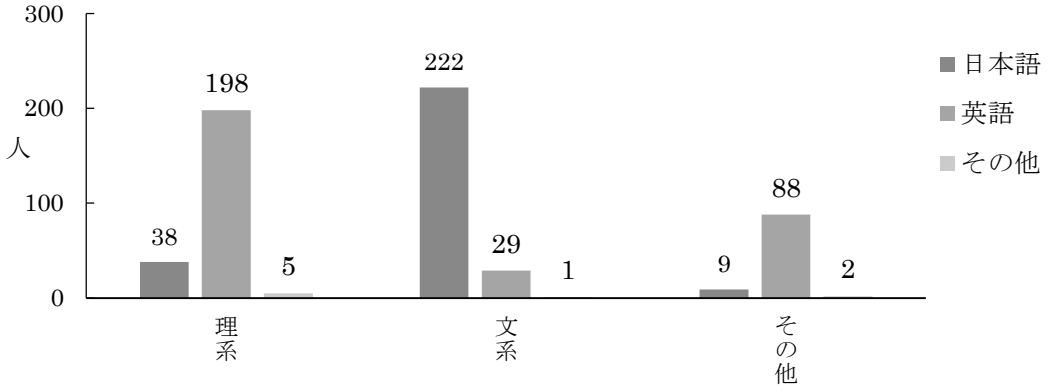

図2.3　論文の読み書き

2.4 あなたは、指導教員との会話でおもにどの言語を使いますか？(回答数 588)

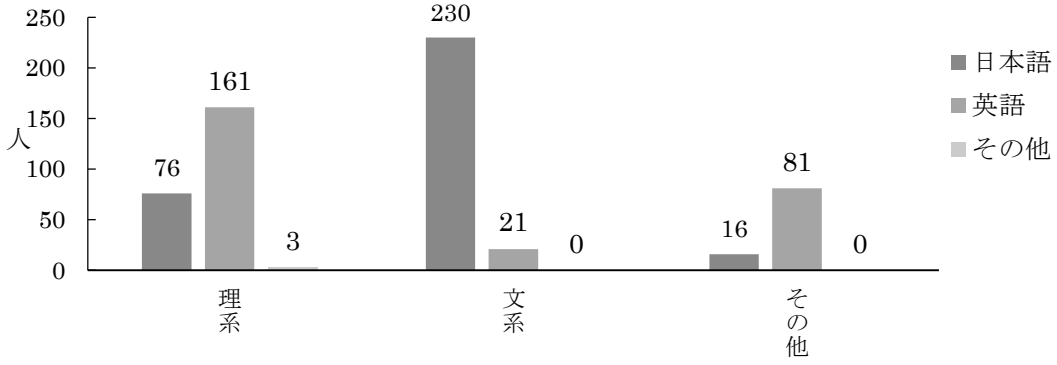

図2.4　指導教員との会話

2.5 あなたは、研究室の人たちとの会話でおもにどの言語を使いますか？(回答数 582)

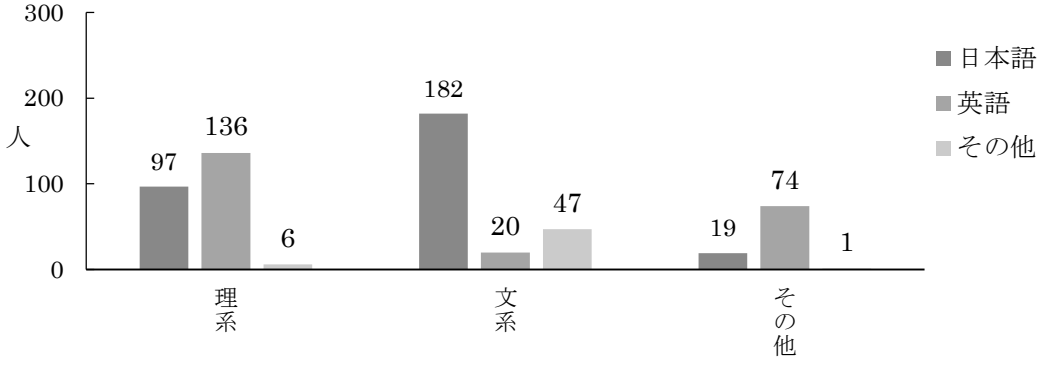

図2.5　研究室の人との会話

2.3～2.5 に示したように、理系の学生の方は文系の学生よりも論文の読み書きは圧倒的に英語を使っているが、指導教員および研究室の人たちとの会話では論文の読み書きの場合に比べて日本語を使う人数が増えている。反対に文系の学生の方は理系の学生よりも、論文の読み書き、指導教員および研究室の人たちとの会話で圧倒的に日本語を使っている。「研究室の人との会話」において「その他」の言語と回答している人が多いのは、同国出身者との会話によると考えらえる。

2.6 あなたが広島大学で今まで参加した国際センターの日本語コースを答えてください。(複数回答可)

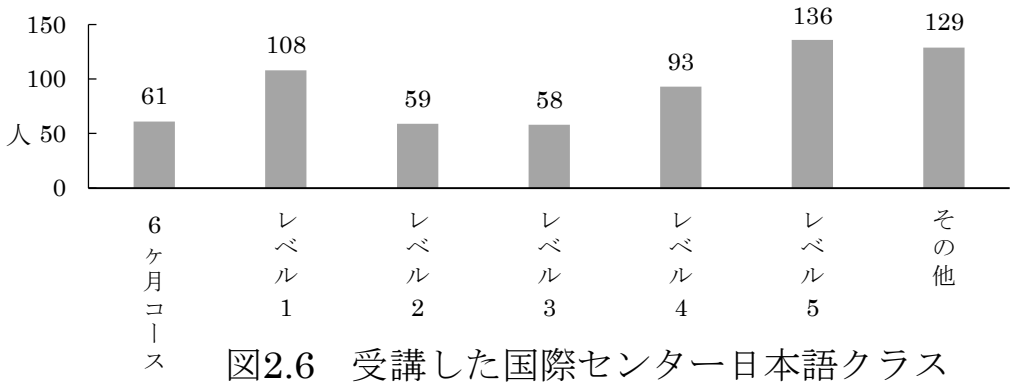

図2.6　受講した国際センター日本語クラス

2.7 あなたの日本語の勉強についてどの意見が当てはまりますか？(複数回答可)

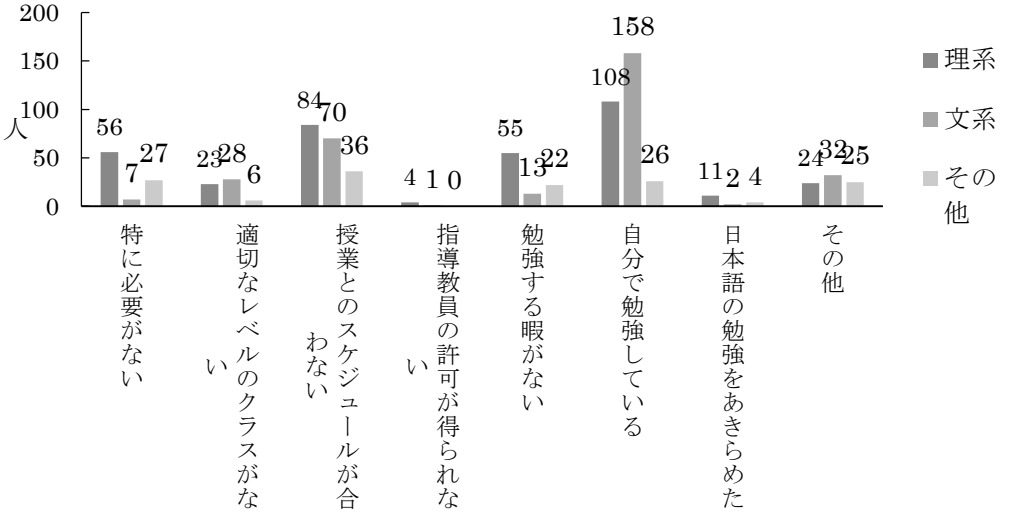

図2.7 日本語の勉強についての意見

図 2.7 より、「自分で勉強している」という学生が多いが(全体の約 51%)、理系の学生においては文系の学生よりもやや少なめである。「特に必要がない」と感じるのが理系の学生の場合は多いためだと考えられる。「授業とのスケジュールが合わない」学生が 190 名(全体の約 33%)、必要性を感じながらも「時間がない」学生が 90 名(全体の約 16%)存在し、中でも理系の学生において多い。「その他」の意見の中には、「もっと日本語能力を向上さ

せたい」、「時間がない」、「日本人と会話したい。またそのような授業がほしい」というような意見があった。日本語能力が低いにもかかわらず、研究室や指導教員との会話は日本語を使用していたり、生活のための必要性からも、日本語・日本文化学習機会の保障がさらに必要であることが示唆される。

3. 広島大学と指導教員について

3.1 あなたは留学フェアに参加したことがありますか？

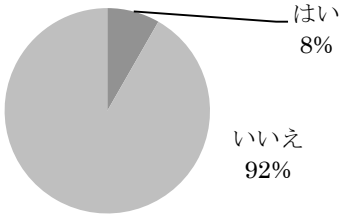

図3.1　留学フェアに参加したことがあるか

3.2 上記で「はい」と答えた人は、どこの都市、会場で参加しましたか？

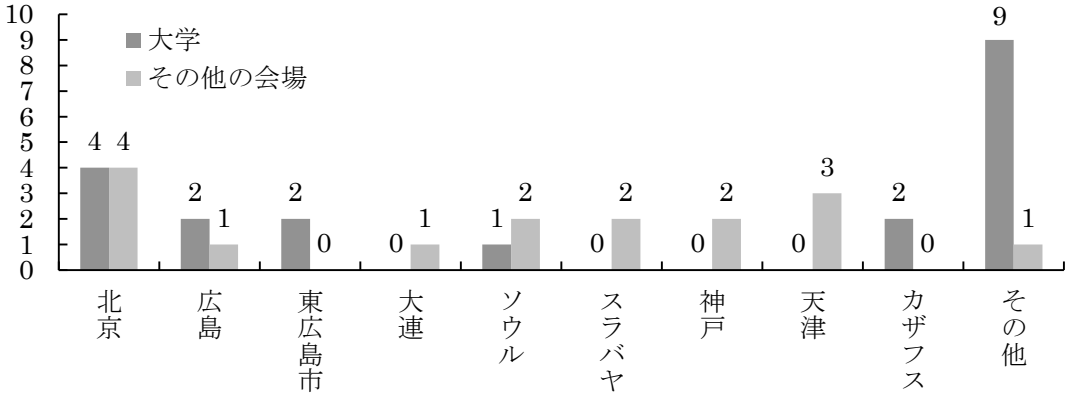

図3.2　留学フェアに参加した都市と会場

3.3 あなたは、どんな情報をもとに広島大学を選びましたか？(複数回答可)

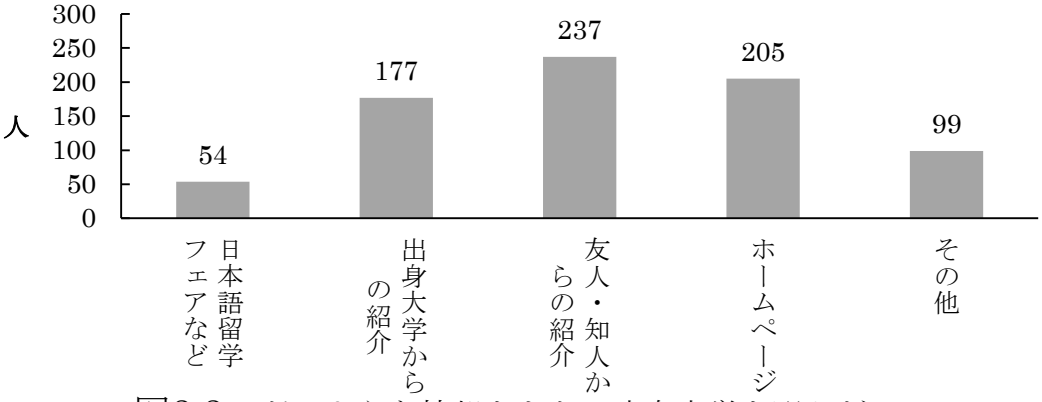

図3.3　どのような情報をもとに広島大学を選んだか

図 3.1 より、留学フェアに参加したことのある学生は 8%、参加したことの無い学生は 92%であり、ほとんどの学生が留学フェアに参加したことの無いことが分かった。図 3.2 より留学フェアに参加した地域は北京が比較的多いが、これは中国人留学生が多いためと考えられる。広島での参加も一定数存在する。ほとんどの留学生が留学フェアに参加することなく広島大学に留学していることが分かった。

図 3.3 より友人・知人からの紹介、および出身大学からの紹介など、他からの紹介によって広島大学を選んだ学生が最も多い。一方でホームページの情報をもとに広島大学を選んだ学生も多く、web 上で公開されている情報が留学生にとって重要な情報源の一つであることが示唆される。

3.4 あなたは、指導教員のことをどのようにして知りましたか？(複数回答可)

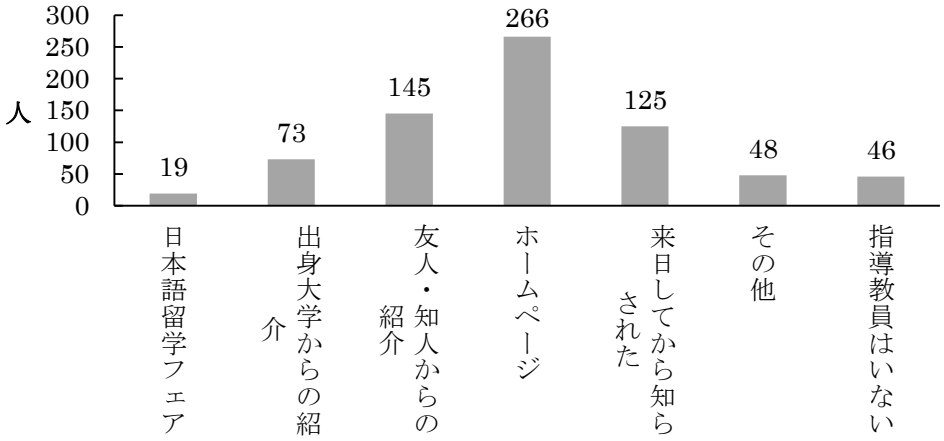

図3.4　指導教員をどのようにして知ったか

3.5 あなたは来日前に指導教員とどのような相談をしましたか？(複数回答可)

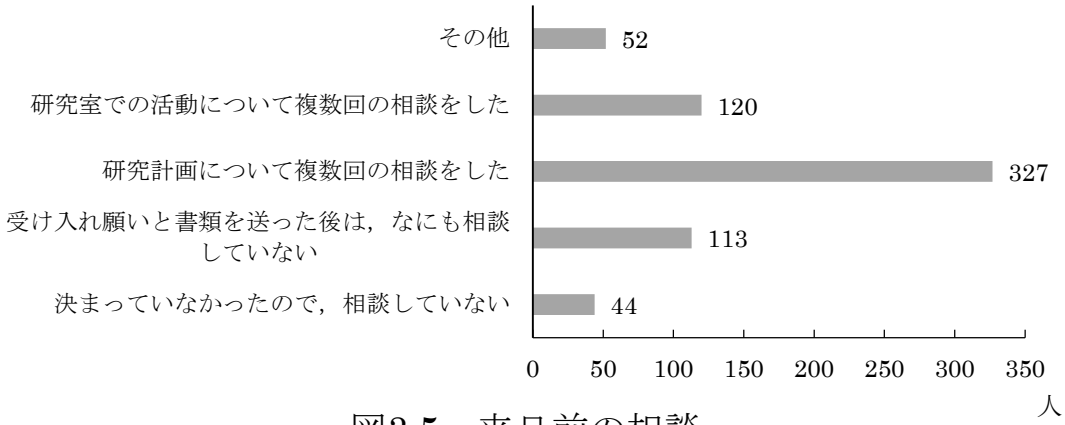

図3.5　来日前の相談

図 3.5 では、指導教員と来日前に相談をする必要がないと考えられる学部生の回答は除いている。「決まっていなかったので、相談していない」という回答が全体で 44 名であり、昨年度と比較してかなり減少したと言える。一方で「受け入れ願いと書類を送った後は、何も相談していない」という回答は依然として 113 名存在する。

研究室および指導教員とのミスマッチは、留学生にとって最も大きな問題であり、予防のためには事前相談が不可欠である。受け入れ願いと研究計画書などの提出を受け入れられた時点で留学生は、指導教員が全面的に自分の研究計画を受け入れてくれていると思う一方で、指導教員側は「来てからの話し」を考えていることもある。昨年度の報告にもあるように、相互不理解が入学時から始まっている可能性が依然として高い。受け入れ前の複数回の相談(確認)を実施すべきであることを今後強調していかなければならない。

3.6 指導教員との関係において、次のうちどれがあなたにあてはまりますか？
(複数回答可)

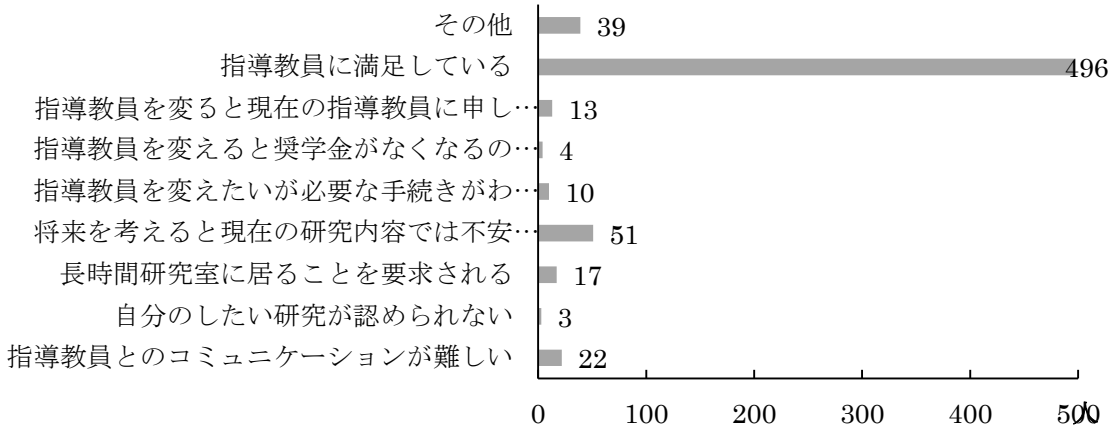

図3.6　指導教員との関係

概ね指導教員に満足しているようであるが、「将来を考えると現在の研究内容では不安がある」という回答者が 51 人と多い。指導教員を変えたいが「申し訳ない」、「奨学金が無くなるのではないかと心配」、「必要な手続きが分からない」という留学生も存在している。深刻な問題である場合もあるため、各相談窓口での対応が求められる。

4. 学習支援について

4.1 学生生活の中で困っていることがありますか？(複数回答可)

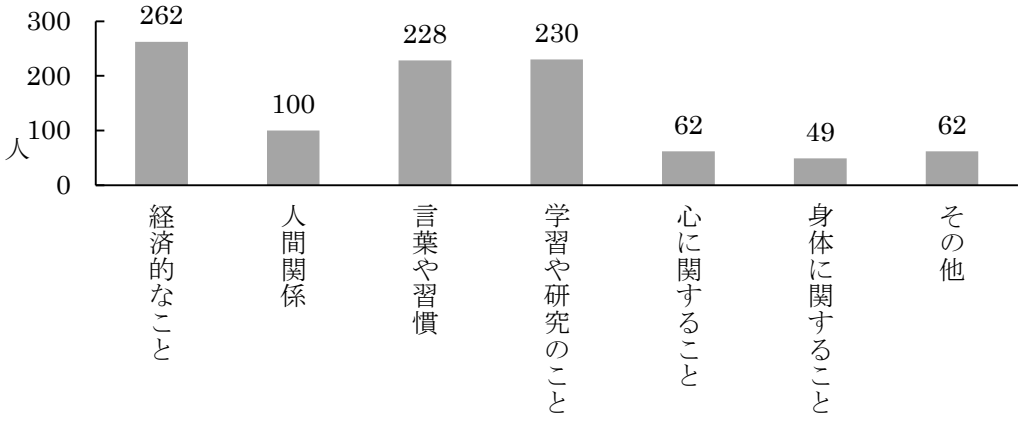

図4.1　困っていること

「経済的なこと」が最も多く、262 名が悩んでいる。次いで「学習や研究のこと」が 230 名、「言葉や習慣」が 228 名と多かった。これらは質問紙最後の自由記述欄でも多く述べられていたため、参照して頂きたい。

4.2 困ったことがあるときにはおもに誰に相談しますか？(複数回答可)

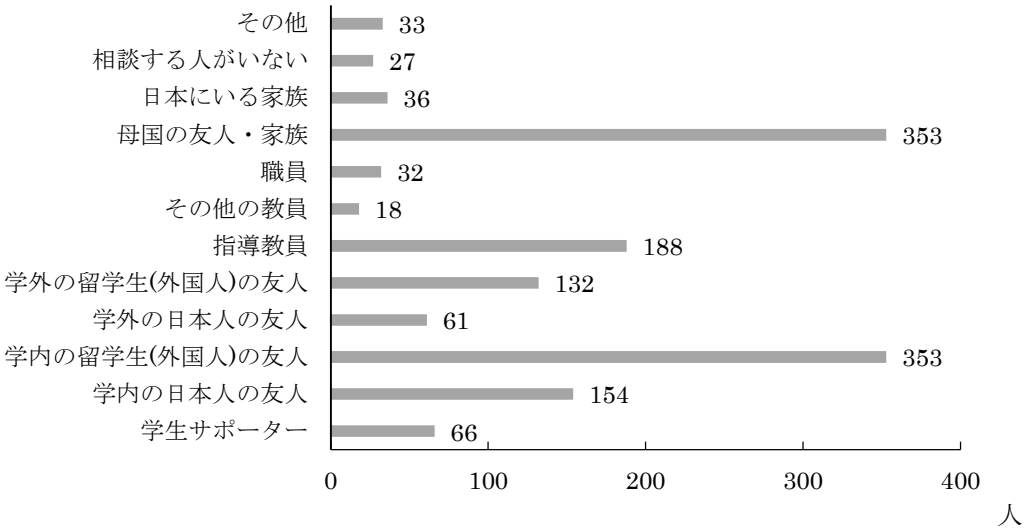

図4.2　相談する相手

相談する相手としては「学内の留学生の友人」、「母国の友人・家族」が非常に多い。次いで「指導教員」が 188 名、「学内の日本人の友人」が 154 名、「学外の留学生の友人」が 132 名と多かった。学内の日本人の友人よりも指導教員の方が多く、指導教員のサポートの重要性がうかがわれる。

4.3 学生生活支援のための次の相談窓口があることを知っていますか？相談したことがありますか？

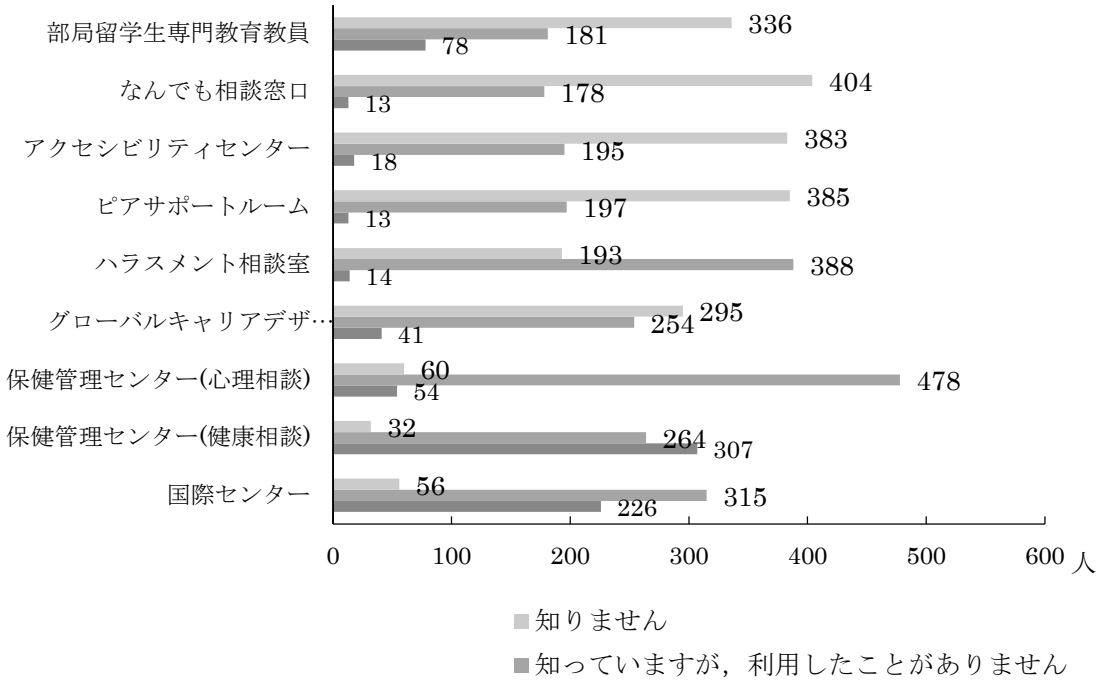

図4.3　窓口認知および利用

ピアサポートルーム、アクセシビリティセンター、なんでも相談窓口、部局留学生専門教育教員の認知度が非常に低い。部局留学生専門教育教員については、配置されていない部局があることも影響している。有意義な留学生生活、問題の予防や早期解決のためには、留学生支援窓口の周知徹底を図る必要がある。

4.4 下記の窓口を利用したことがある方にお尋ねします。下記の窓口での支援に満足されましたか？

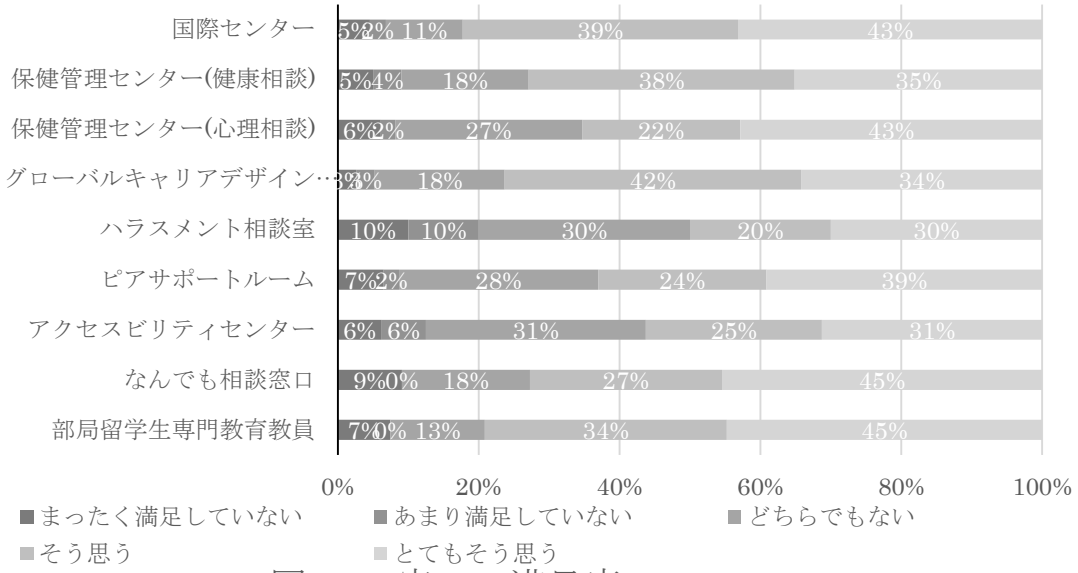

図4.4　窓口の満足度

4.5 保健管理センターで、留学生のためのカウンセリング(英語と日本語で対応)を行っていることを知っていますか？

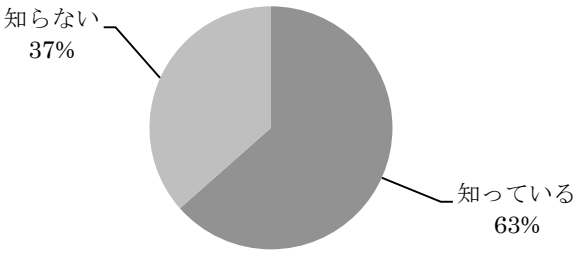

図4.5　カウンセリングを行っていることを知っているか

4.6 悩みごとがあったとき、カウンセリングを受けようと思いますか？

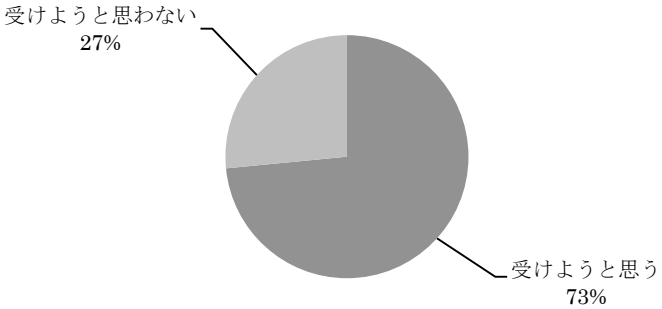

図4.5　カウンセリングを受けようと思うか

4.7 4.6 で「2. 受けようと思わない」と回答された方は、その理由を教えてください。

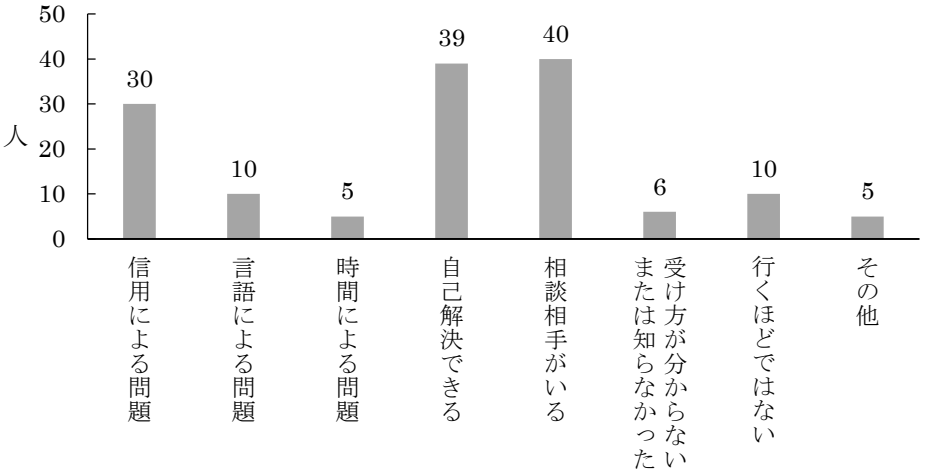

図4.7　受けようと思わない理由

4.8 学生定期健康診断が、毎年 4 月のみに行われていることを知っていますか？

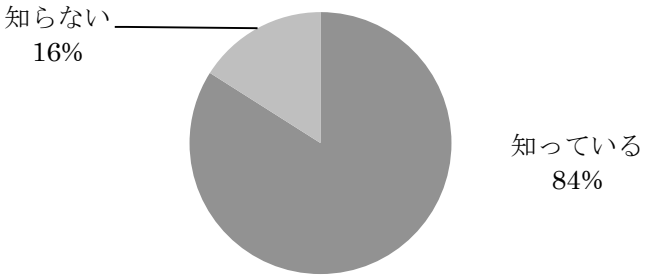

図4.8　健康診断を知っているか

4.9 学年度内(4 月～3 月)に健康診断を受けていなければ、健康診断証明書が発行されないことを知っていますか？

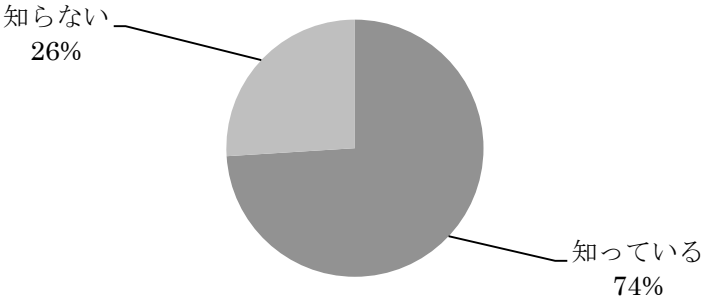

図4.9　健康診断証明書の発行を知っているか

4.10 あなたは日本の企業への就職を希望していますか？

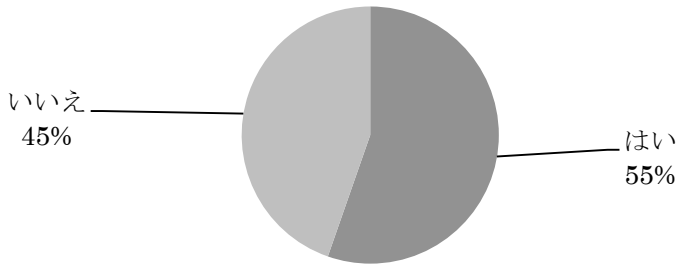

図4.10　日本企業への就職を希望するか

4.11「はい」と回答した方は、就職活動のサポートで必要なことは何ですか。(複数回答可)

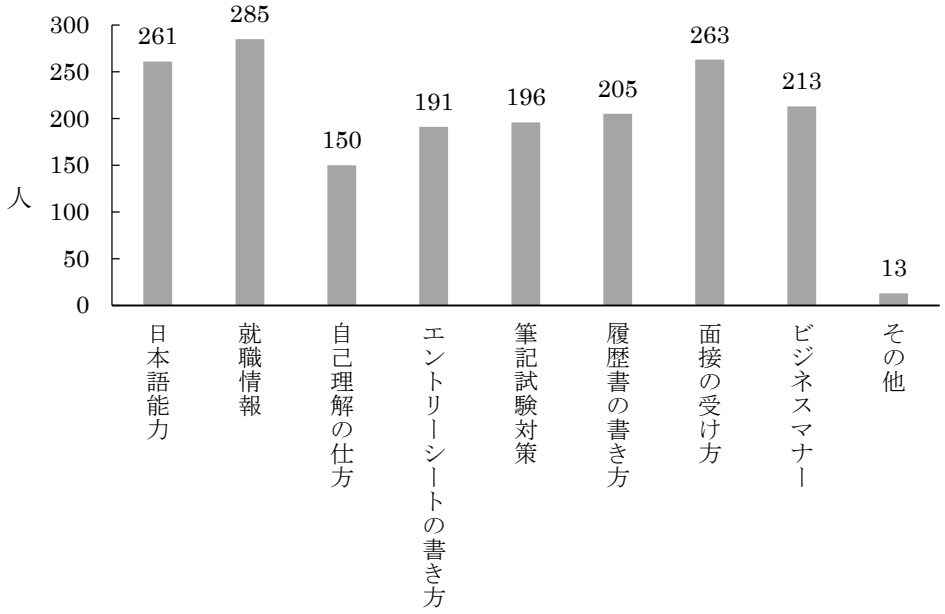

図4.11　就職活動のサポートで必要なこと

5. 広島大学における学習，生活に関する満足度

広島大学に関する以下の内容について、あてはまる回答の数字に○をしてください。

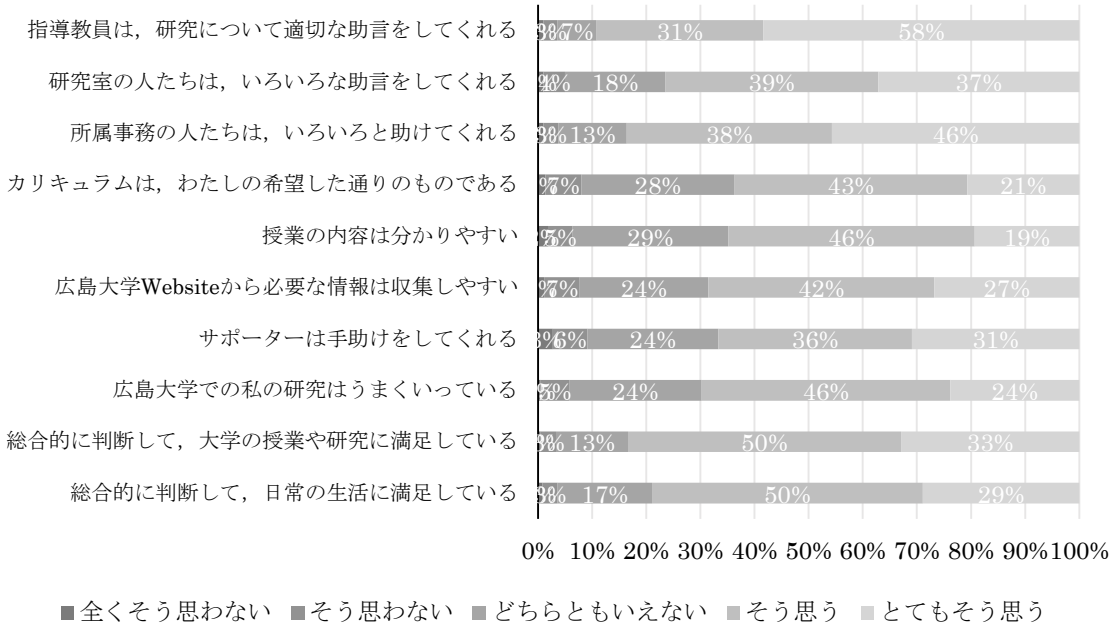

図5 広島大学における学習・生活に関する満足度

満足度について「全くそう思わない」(1 点)から「とてもそう思う」(5 点)で平均値を求めたところ、指導教員について最も満足度が高く、カリキュラムと授業の満足度は比較的低めである。以下に、留学生満足度の平均値経年比較を示す。

表 3. 留学生満足度の平均値経年比較

	2009	2010	2012	2013	2014
指導教員は，研究について適切な助言をしてくれる	4.47	4.39	4.46	4.40	4.43
研究室の人たちは，いろいろな助言をしてくれる	4.10	3.98	4.07	4.00	4.08
所属事務の人たちは，いろいろと助けてくれる	4.20	4.19	4.27	4.21	4.25
カリキュラムは，わたしの希望した通りのものである	3.90	3.69	3.80	3.73	3.75
授業の内容は分かりやすい	3.71	3.61	3.66	3.76	3.76
広島大学Websiteから必要な情報は収集しやすい	3.82	3.79	3.82	3.83	3.86
サポーターは手助けをしてくれる	3.93	3.79	3.86	3.88	3.86
広島大学での私の研究はうまくいっている	3.94	3.88	3.91	3.93	3.87
総合的に判断して，大学の授業や研究に満足している	4.13	4.00	4.13	4.11	4.12
総合的に判断して，日常の生活に満足している	3.93	3.86	4.02	4.03	4.03

＜自由記述＞

＊自由記述について

107 名が回答。プライベートで個人が特定される内容や教員を名指しするものを省き、内容が重複するものは選抜して記載。

主な内容を以下にまとめる。

・奨学金や授業料免除が少ない不満、合否基準の不透明さについて
・アルバイトのために勉強時間が少ない
・就職活動のためのセミナーを開いてほしい
・研究・勉強スペースがほしい
・日本人と日本語で話す機会があまりない
・英語による情報をもっと提供してもらいたい
・大学の施設の不便さ
・実践的な日本語の授業がない
・指導教官からの指導不足

＜新規留学生（1.8 において 1 年未満と回答）についての分析＞

1. 一般的な質問

1.1 性別（有効回答 235）

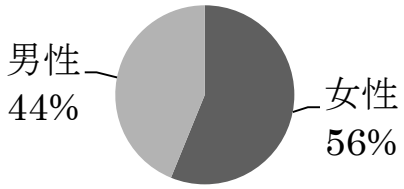

図1.1　性別

1.2 年齢（有効回答 235）

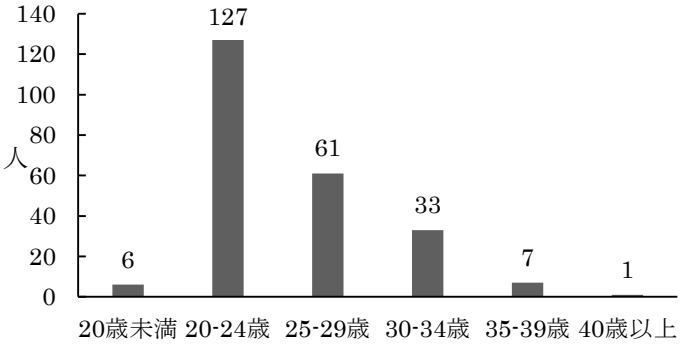

図1.2 年齢

1.3 出身国・地域（有効回答 235）

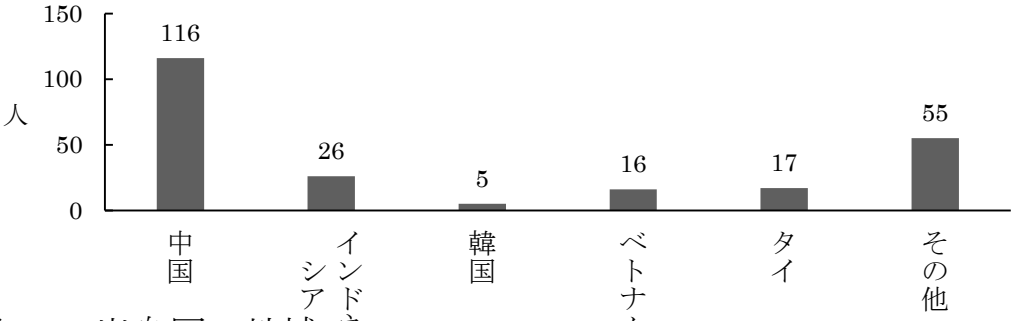

図1.3　出身国・地域

1.4 学籍（有効回答 234）

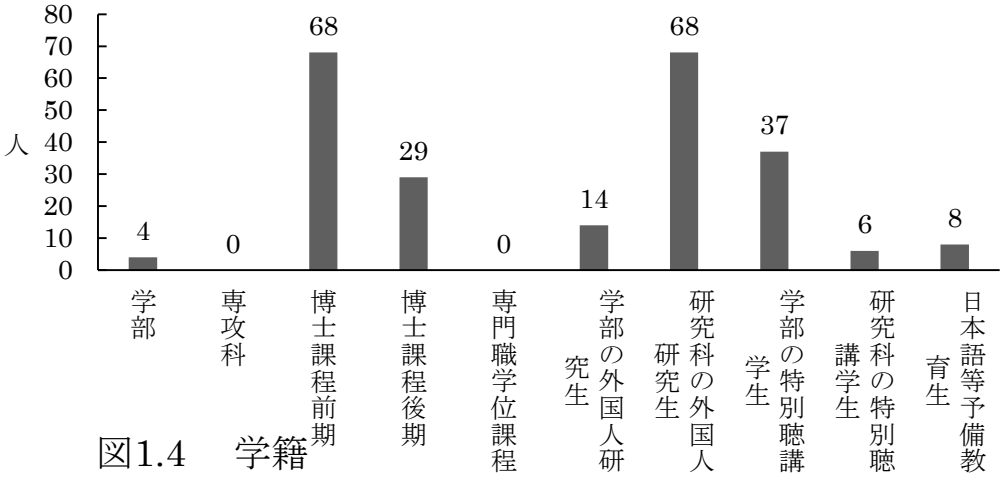

図1.4　学籍

1.5 所属（有効回答 235）

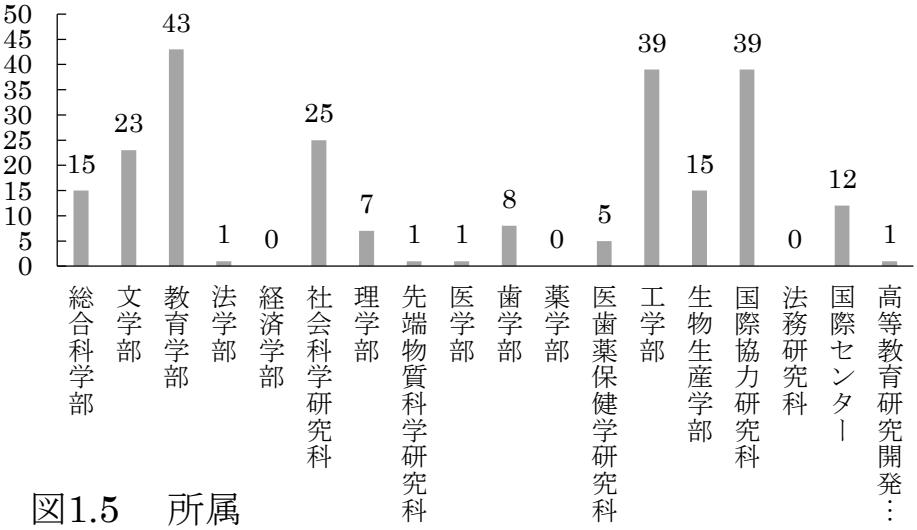

図1.5　所属

1.6 私費・国費(有効回答 231)

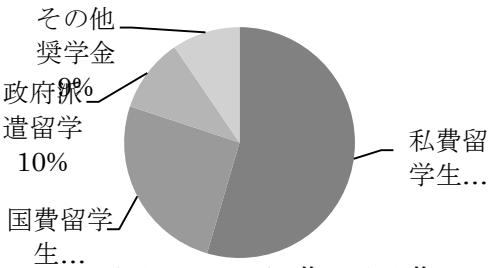

図1.6　私費・国費

1.7 専門（有効回答 228）

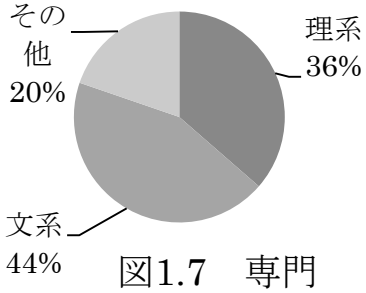

図1.7　専門

3. 広島大学と指導教員について

3.4 あなたは、指導教員のことをどのようにして知りましたか？（複数回答可）

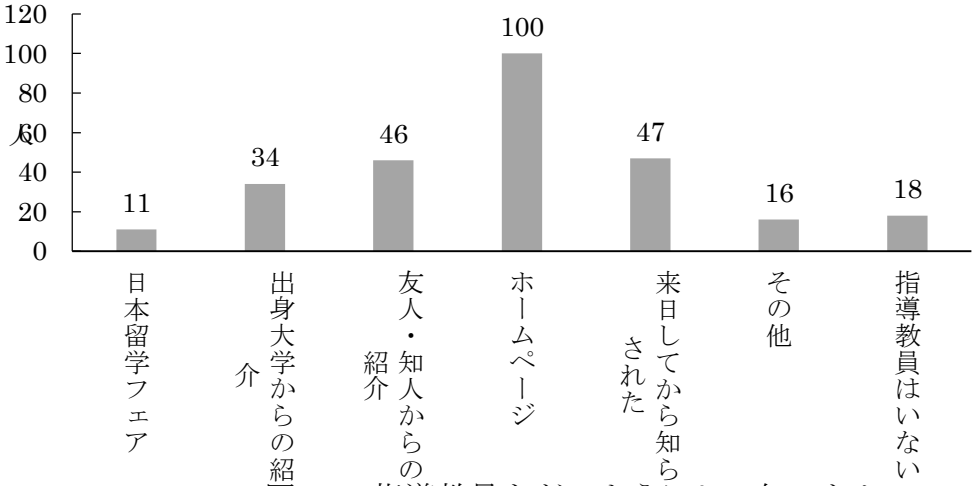

図3.4　指導教員をどのようにして知ったか

3.5 あなたは来日前に指導教員とどのような相談をしましたか？（複数回答可）

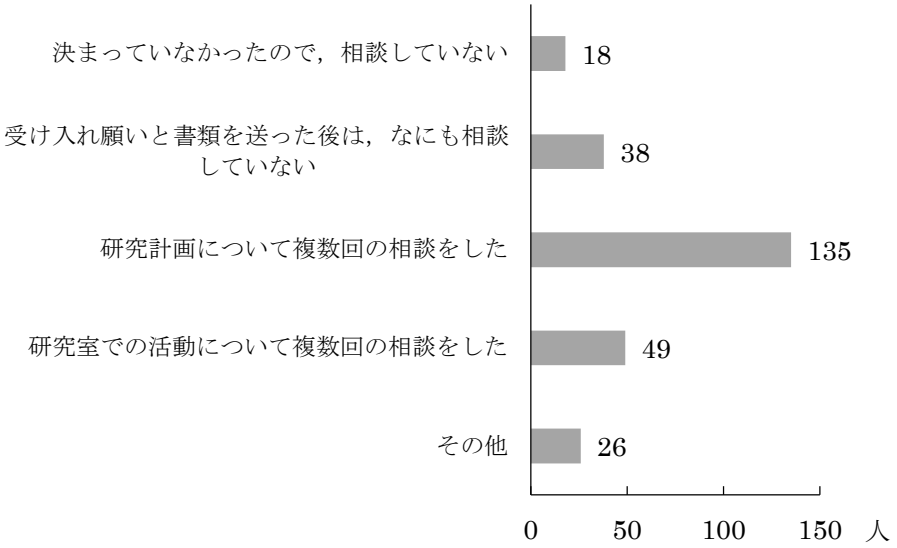

図3.5　来日前の相談

3.6 指導教員との関係において、次の内どれがあなたにあてはまりますか？（複数回答可）

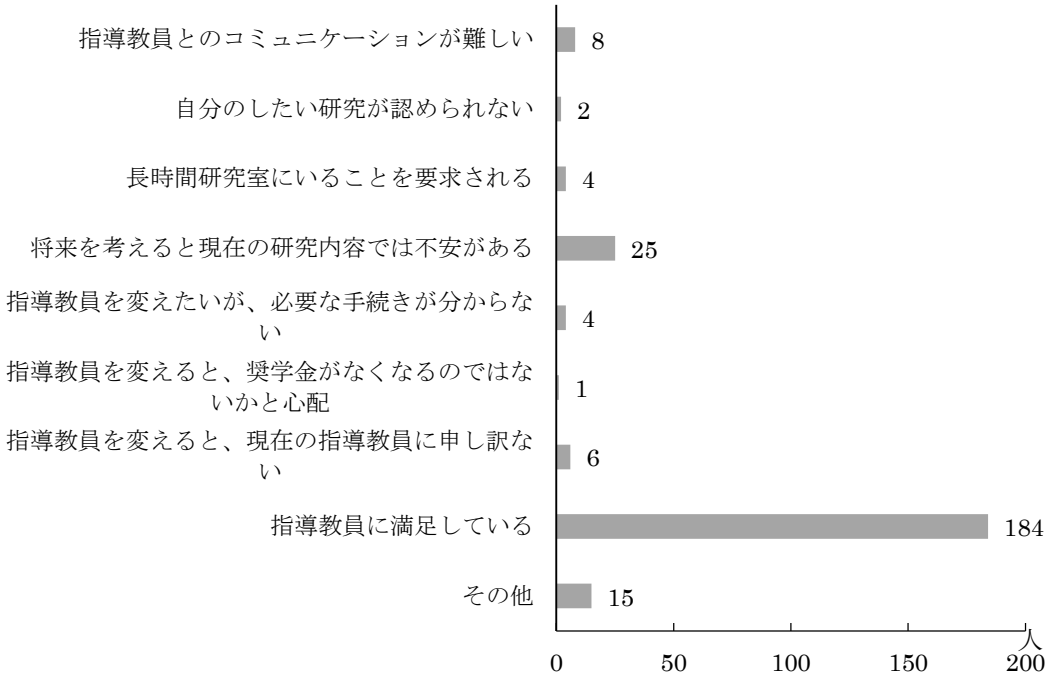

図3.6　指導教員との関係

5. 広島大学における学習、生活に関する満足度

広島大学に関する以下の内容について、当てはまる回答に数字に○をしてください。

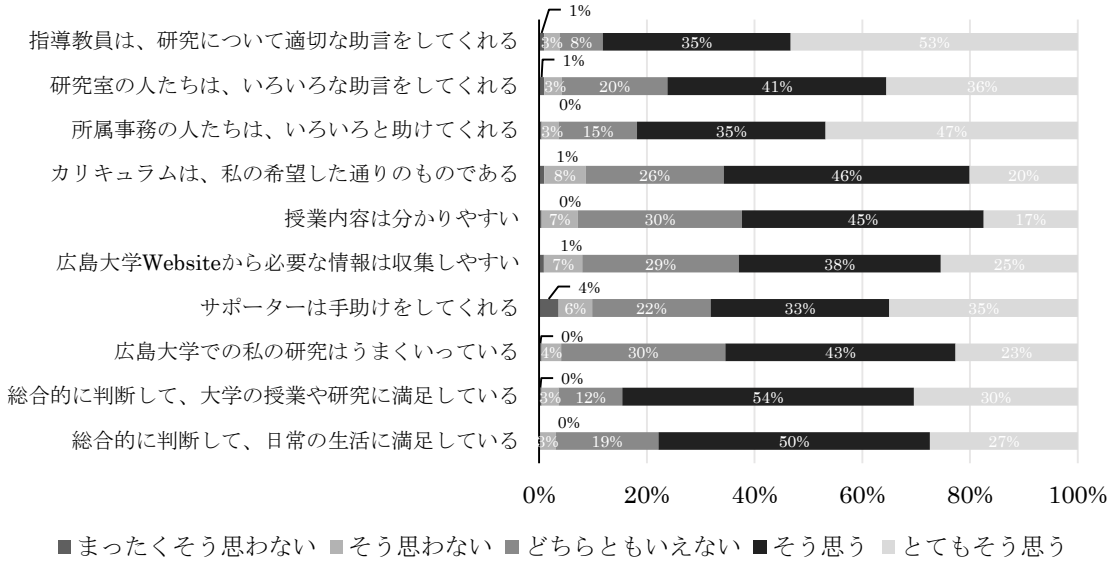

図5 広島大学における学習・生活に関する満足度

＜霞キャンパスの留学生(1.5 において 9～12 と回答)についての分析＞

1. 一般的な質問

1.1 性別（有効回答 44）

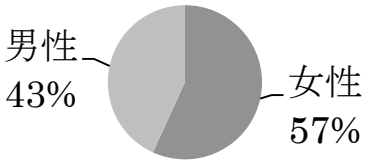

図1.1　性別

1.2 年齢（有効回答 44）

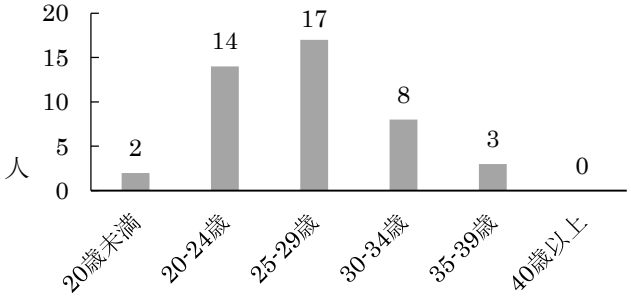

図1.2 年齢

1.3 出身国・地域（有効回答 44）

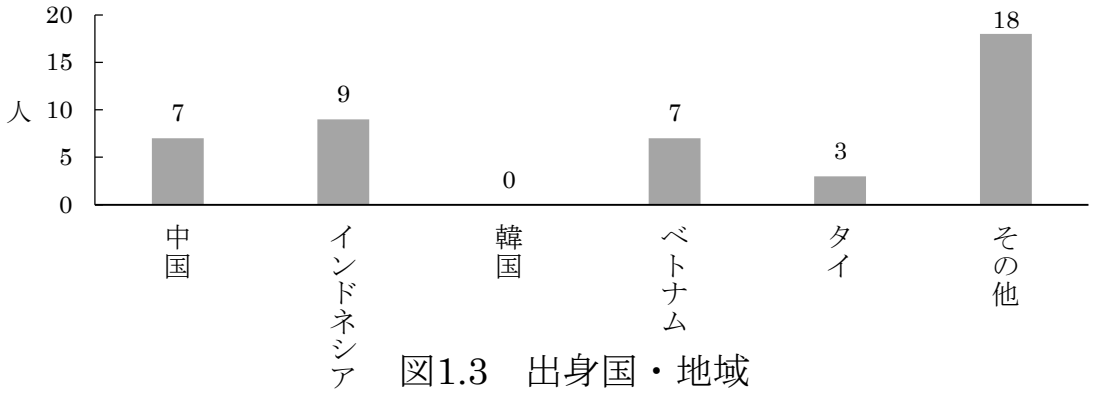

図1.3　出身国・地域

1.4 学籍（有効回答 44）

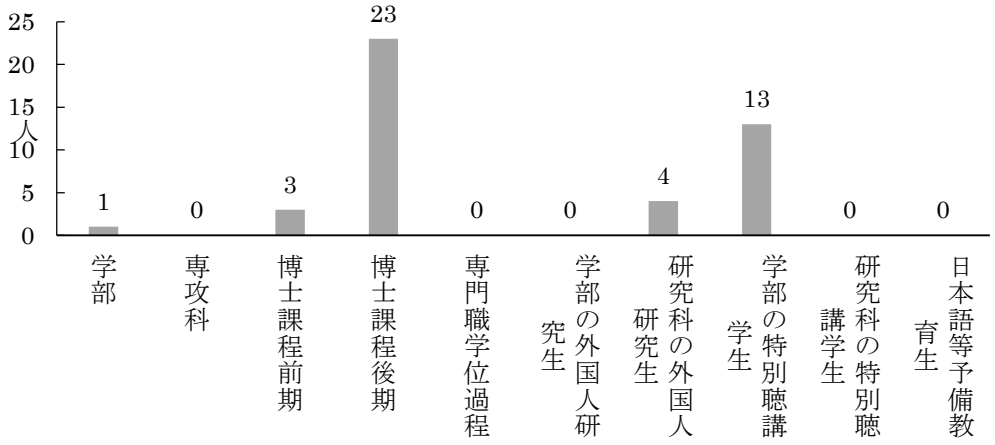

図1.4　学籍

1.5 所属（有効回答 44）

図1.5　所属

1.6 私費・国費（有効回答 42）

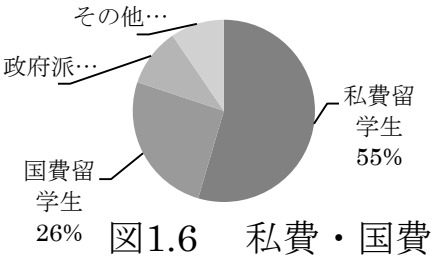

図1.6　私費・国費

1.7 専門（有効回答 40）

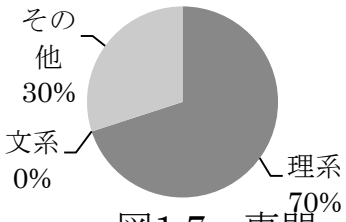

図1.7　専門

1.8 広島大学での在籍年数（有効回答 44）

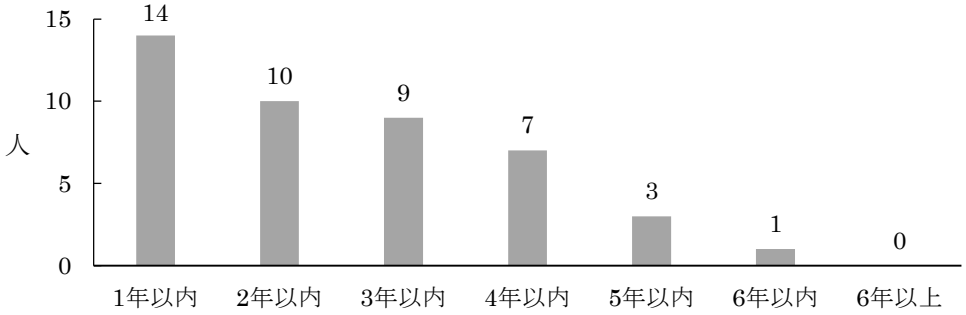

図1.8 広島大学での在籍年数

2. コミュニケーション言語と学習について

2.1 あなたの日本語能力はどのくらいですか？

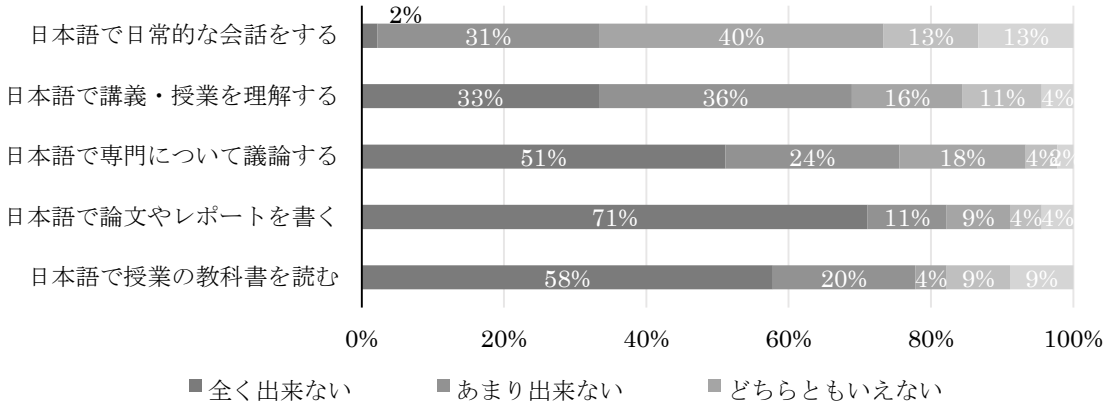

図2.1　日本語能力

2,2 あなたの英語能力はどのくらいですか？

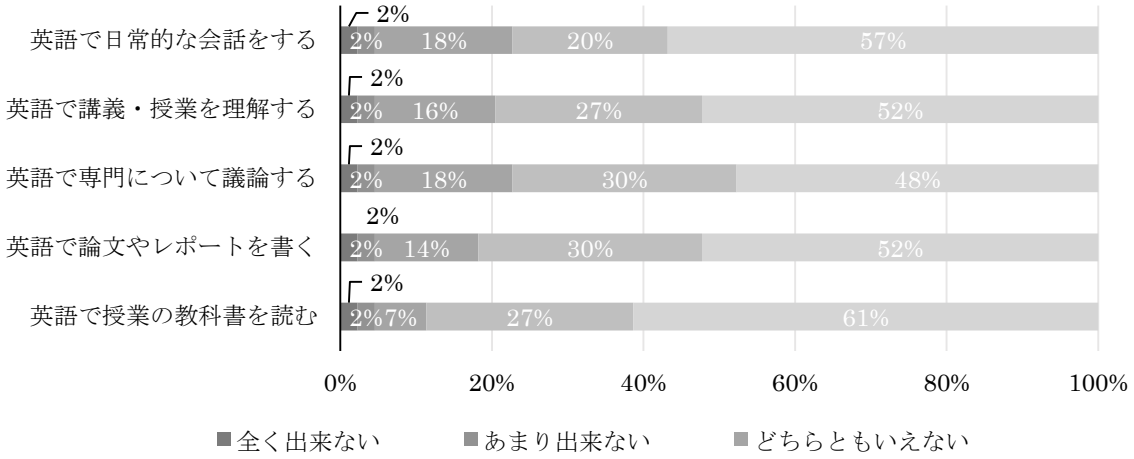

図2.2　英語能力

2.3 あなたは、論文の読み書きでおもにどの言語を使いますか？（回答数 40）

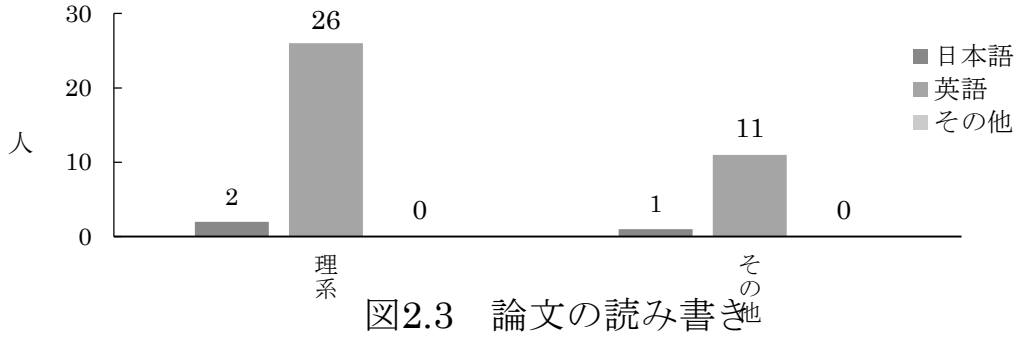

図2.3　論文の読み書き

2.4 あなたは、指導教員との会話でおもにどの言語を使いますか？（回答数 39）

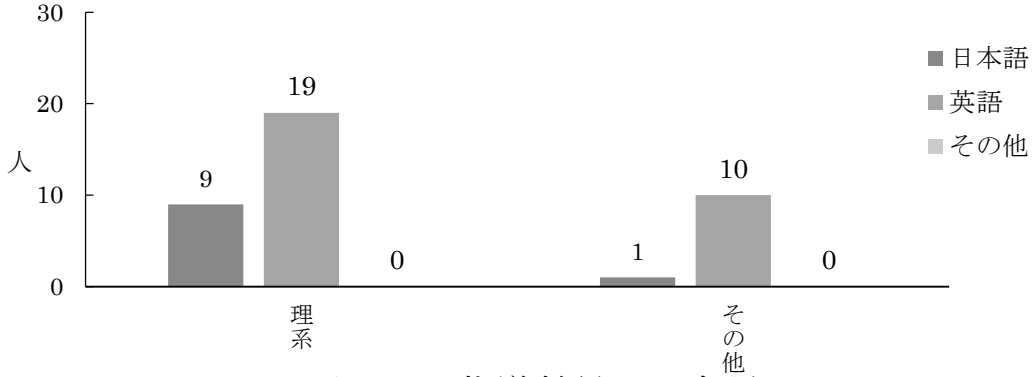

図2.4　指導教員との会話

2.5 あなたは、研究室の人たちとの会話でおもにどの言語を使いますか？（回答数 38）

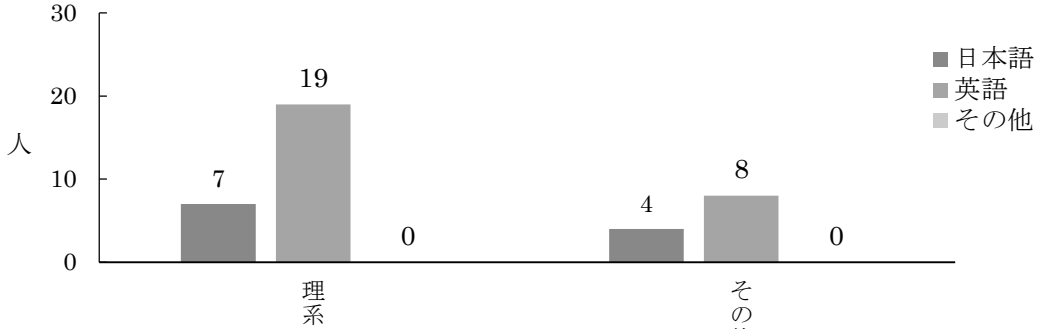

図2.5　研究室の人との会話

2.6 あなたが広島大学で今まで参加した国際センターの日本語コースを教えてください。

（複数回答可）

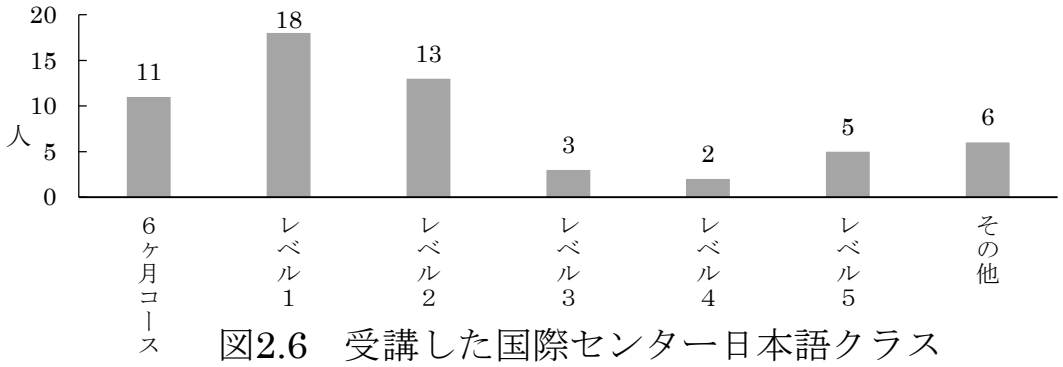

図2.6　受講した国際センター日本語クラス

2.7 あなたの日本語の勉強についてどの意見が当てはまりますか？（複数回答可）

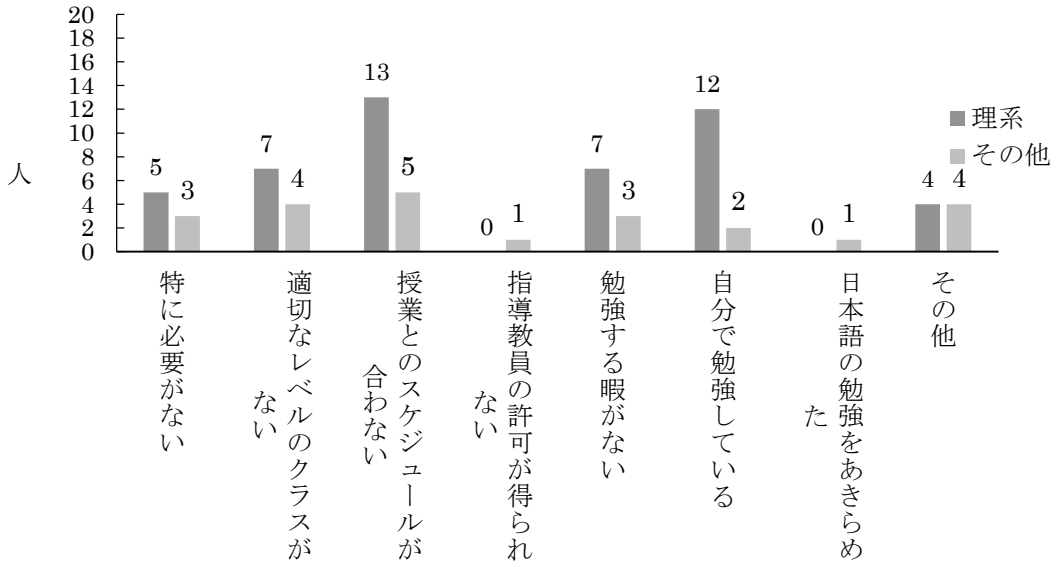

図2.7 日本語の勉強についての意見

広島大学短期交換留学(HUSA)プログラム活動報告

堀田泰司・恒松直美

沿革

1993 年に日米文化教育交流会議(The United States - Japan Conference on Cultural and Educational Interchange： 通称カルコン CULCON)が開催され日米間の学生交流の促進が謳われ、政府支援の下、1995 - 96 年に 8 国立大学が短期学生交流プログラムを開始した。広島大学短期交換留学プログラム（Hiroshima University Study Abroad Program, 以下 HUSA プログラム）は、その 8 国立大学の 1 つとして、1996 年に開始され、これまで積極的に学生交流を促進してきた。よって、当初の本学の短期交換留学プログラムの目的は、米国の高等教育機関との交流を中心とするものであった。しかし、プログラムは徐々に拡大し、現在は、世界中に点在する協定大学 63 大学及び 2 コンソーシアム（University Studies Abroad Consortium, USAC 及び University Mobility in Asia and the Pacific, UMAP, アジア太平洋大学交流機構）と交流を行っており、交換留学生受入れ・派遣留学を通して学生に異文化を体験させるだけでなく、留学しない本学のキャンパスで学習する学生に対しても異文化交流の機会を提供し、より多くの学生に国際教育の場を提供している。

教育内容としては、世界中の留学生が本学で学べるように英語による特別科目を開講し、より質の高い教育を提供するよう努力している。近年では、留学生に対し、新しく学生主導型で進める「グローバル化支援インターンシップ」を開講し、地域と協力して地域社会がグローバル社会に対応するための地域活性化プロジェクトにも取り組んでいる。また、海外へ留学を希望する本学の在籍学生に対しては、説明会、留学フェア、文化交流会等の開催に加え、本学が積極的に参加している大学間コンソーシアムの INU(International Network of Universities)を活用し、アメリカとオーストラリアの教授によるオンライン・ビデオ講義を駆使した国際教養科目を開講し、本学の派遣留学予備軍の養成を目指している。

さらに、2000 年より、コンソーシアム型学生交流の促進を目指し UMAP (University Mobility in Asia and Pacific)事業に参加し、留学した学生の単位互換をより公平、且つ正確に行うため UMAP が開発した UCTS（UMAP 単位互換方式、UMAP Credit Transfer Scheme）を採用し、全協定大学に対する本学の教育プログラムの透明性と互換性を高めている。現在は、UMAP が新たに開発した USCO (UMAP Student Connection Online)

事業にも積極的に参加し、アジア・太平洋諸国の学生交流促進に貢献している。

運営組織としては、HUSA プログラム開始当初から全学組織である短期留学交流プログラム部会が全体を統括し、交換留学生の選考、協定大学との調整・交渉、英語による国際教育プログラムの拡充等について検討している。部会は各部局代表委員並びにその他委員により構成されている。また、プログラムを直接、管理運営する組織としては、国際センターの国際教育部門の教員 2 名及び留学交流担当の職員がその主たる業務を担っている。

Ⅰ．受け入れプログラムの概要

- 受け入れ期間：一学期または一学年
- 募集人員：約 40 名
- 募集方法：学生交流協定を締結している（締結する）各国の大学に対し募集要項を配布し、公募する
- 応募資格：
  - （1）本学との間に学生交流協定を締結している大学の学生または学生交流について双方が合意した書簡がある大学の学生
  - （2）原則として自国の大学の正規課程３年次の学部学生（協定校によっては、大学院生も含む）
  - （3）学業成績が優秀で日本留学に熱意を持つ者
  - （4）非英語圏から応募する学生にあっては英語又は日本語による授業を履修できるのに必要な英語力を持つ者
- 選考方法：短期留学交流プログラム部会において、協定大学の推薦・UMAP 学習計画書・プログラム参加目的を参考にし、書類選考を行う。
- 学生の身分と受け入れ方法：学生は、国際センターで統括し、学部生は「特別聴講学生」、院生は「特別研究学生」又は「特別聴講学生」（広島大学学生交流規定）として受け入れる。
- 授業料等の不徴収：交流協定に基づき、特別聴講学生として受け入れるので、授業料等を徴収しない（なお授業料については、協定において「相互不徴収」について合意する必要がある）。
- カリキュラム：授業科目は、3 つの形態から構成されている。「特設科目」(Special Course)は、HUSA プログラムの留学生のために特別に開設された主に英語による授業であり、「常設科目」(Integrated Course)は、既に学部で開設されていたものに、HUSA プログラムの学生が登録した場合、英語による支援を行う授業、ま

たは日本人学生向けに易しい英語で授業を行うものであり、日本人学生と共に履修する。第 3 に「日本語関係科目」は主に教育学部が開設し、国際センターが実施している日本語（初級・中級・上級）及び日本事情の科目である。さらに、日本語レベルが上級の学生は、各学部で正規学生用に開設されている授業を受講することができる。授業科目は各学部が開設しているものであり、その統括は各学部でおこなわれている。以下が、2014-2015 年度に開設された授業科目一覧表である。

2014-2015 度（2014 年 10 月～2015 年 7 月）授業科目一覧

2014 度秋学期

１．特設科目【Special Course】

授業科目名	単位数	備考
Study on International Issues and Challenges	3 単位	教育学部
Study on Japanese Companies & Organizations	2 単位	教育学部
The Independent Study on Japanese Companies & Organizations	1 単位	教育学部
The Japanese Culture and Peace	2 単位	教育学部
The Independent Study Japanese Culture and Peace	1 単位	教育学部
Globalization Support Internship Ⅰ: Career Theory and Practice	2 単位	教育学部
Globalization Support Internship Ⅱ: Practicum *	2 単位	教育学部
Japanese Society and Gender Issues	2 単位	教育学部
The Independent Study on Japanese Society and Gender Issues	1 単位	教育学部
Family Life in Japan	2 単位	教育学部
Japanese Economy	2 単位	経済学部
Introduction to Environmental Chemistry	2 単位	工学部
Food Chain Dynamics	2 単位	生物生産学部
Introduction to Phonetics and Phonology	2 単位	総合科学部
Seminar in English Debate	2 単位	総合科学部
From the microscopic world to macroscopic universe	1/2 単位	総合科学部
Japanese Society and Lifestyles	2 単位	総合科学部
Quantitative Methods in the Social Sciences (Introductory Statistics and Regression Analysis)	2 単位	教育学部
Japanese Business and Organizational Management	2 単位	教育学部

*通年開講

２．常設科目【Integrated Course】

授業科目名	単位数	備考
Earth Environmental Chemistry	2 単位	総合科学部
Studies of Second Language Acquisition	2 単位	総合科学部
Introduction to Intercultural Communication	2 単位	総合科学部
Laboratory in Physical Sciences B	3 単位	理学部
Network and algebra system	2 単位	理学部
Structure of the Human Body; Developmental Biology	14 単位	医学部
General Health and Oral Sciences	2 単位	教養教育
International Relations	2 単位	IDEC
Economic Development and Policy	2 単位	IDEC

2015 度春学期

１．特設科目【Special Course】

授業科目名	単位数	備考
Study on International Issues and Challenges	3 単位	教育学部
Study on Japanese Companies & Organizations	2 単位	教育学部
The Independent Study on Japanese Companies & Organizations	1 単位	教育学部
The Japanese Culture and Peace	2 単位	教育学部
The Independent Study Japanese Culture and Peace	1 単位	教育学部
Globalization Support Internship Ⅱ: Practicum	4 単位	教育学部
Japanese Society and Lifestyles A	2 単位	総合科学部
Recent Developments in Biological Sciences	2 単位	理学部
Introduction to Advanced and Integrated Science	1 単位	理学部
Modern Chemistry	2 単位	理学部
Politics and Foreign Relations of Japan	2 単位	法学部
Japanese Art and Global Education	2 単位	教育学部
Cross-Cultural Studies on Education	2 単位	教育学部
Quantitative Methods in the Social Sciences (Introductory Statistics and Regression Analysis)	2 単位	教育学部
Japanese Business and Organizational Management	2 単位	教育学部
International Cooperation in Education	2 単位	教育学部

２．常設科目【Integrated Course】

授業科目名	単位数	備考
Asian History	3 単位	文学部
教育学部留学生のための専門基礎	2 単位	教育学部
INU Collaborated Special Lecture	2 単位	教育学部
Psycholinguistics	2 単位	総合科学部
Introduction to Linguistics	2 単位	総合科学部
English Grammar	2 単位	文学部
CMOS Logic Circuit Design	2 単位	工学部
English Stylistics	2 単位	文学部

日本語・日本事情関係科目

授業科目名	単位数	開講学期	備考
日本語初級　IA	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級　IB	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級　IC	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級　ID	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級　IIA	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語初級　IIB	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語初級　IIC	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級　IA	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級　IB	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級　IC	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級　IIA	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級　IIB	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級　IIC	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語聴解特別演習　A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語表現特別演習　A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語古文特別演習　A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級　B　（リスニング）	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級　B　（映画）	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級　B　（古典）	2 単位	秋・春学期	国際センター

日本語上級　B　（語彙）	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級　B　（表現）	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級　B　（分析）	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本社会・文化　A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本社会と文化　B	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本の思想・哲学 A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本思想と哲学　B	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本の地域・文化　A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本の地域・文化　B	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本の映像文化史　A	2 単位	秋・春学期	国際センター

・受け入れ体制の整備：（１）日本における様々な体験学習の場を提供する。（２）学生宿舎（日本人・留学生混在型）を用意する。（３）日本人学生サポーターを事前に配置し、受け入れ開始と同時に留学生を支援する。（４）日本語学習の補助として日本人学生の会話パートナーを紹介する。（５）入国時身元保証人としては、各指導教官に依頼せず、機関保障（広島大学）とする。（６）本学が提供する教育の質を保証する活動の一環とし、成績証明書に UMAP の単位互換方式である UCTS を導入し、単位互換を促進する。

II. 2014-2015 年度 HUSA プログラム留学生受け入れ状況

2014-2015 年度は、37 名の留学生を受け入れた。期間は、殆どの学生が 1 年間の滞在を希望しており、男女別で見ると 2014-2015 年度 HUSA プログラムに参加した学生数は、男子学生 15 名、女子学生 22 名であった。

III. 2014-2015 年度 HUSA プログラム受け入れに関する業務及び活動内容

◆ 申請と選考

2014 年度募集要項は、2014 年 1 月に各協定大学へ配布され、3 月末に各大学から参加希望者が推薦された。推薦された学生について、4 月に本学の選考委員会によって HUSA プログラム参加者が正式決定された。今年度も、受け入れ留学生の申請において、UMAP 学習計画書を申請書類の中に組み込み、選考や奨学金の推薦の参考資料とした。2004 年度の申請から、受け入れ留学生のオンライン登録システムを導入し、2 本年度も継続してオンライン登録を使用した。オンライン登録により、学生が直接インターネットから情報を入力し、受け入れ留学生のデーターベースが

作成できるようになった。システムも毎年整備し、より効率的な形でオンライン登録が可能となっている。HUSA 受け入れ留学生が増加していくことが予測される中、今後も学生のデータベース作成及び管理にオンライン登録を活用していきたい。

◆ **渡日前の情報の提供**

渡日前のオリエンテーションと日本での生活の準備を兼ねて、広島大学及び留学生活に関する情報を網羅した英語版の「短期交換留学生用手引き(Information for New Students)」を改訂して各学生に送付した。また、ホームページで HUSA プログラム、広島大学、日本での生活について詳細な情報を提供するとともに、「よくある質問」を掲載し留学生がよく疑問に思う事項について説明した。学生の個人的な質問等には、電子メール等を活用し直接個々のケースに対応した。

◆ **チューターオリエンテーション**

日本人学生チューターに対し、今年度も事前に 2 回の説明会を行った。第 1 回目は、チューターとしての全般的な支援活動の内容について説明し、第 2 回目は、留学生が来日する直前に、渡日後 1 週間の事務手続き並びに寮へ入居するまでの具体的な支援活動についてオリエンテーションを行った。

◆ **見学・体験学習**

2014 年 4 月には、「グローバル化支援インターンシップ」を受講する留学生インターンが、担当教員の指導のもと、HUSA プログラム留学生向けの「倉橋・江田島国際交流歴史ツアー」を企画した。国内で唯一、海上自衛隊の潜水艦と護衛艦を間近で見られる呉市昭和町の「アレイからすこじま」公園見学、呉市倉橋町の「長門の造船歴史館」見学、HUSA プログラム留学生と呉市立倉橋中学校との国際交流会、江田島市沖美町における江田島市への移住者・江田島市職員との国際交流会を盛り込んだ。倉橋中学校生徒・教職員・保護者を含む約 160 名が参加した国際交流会は、多国籍の留学生と地方の中学生との新しい異文化接触の体験の場となり地域及び学校からも高い評価を得た。2014 年度秋学期も、例年のように 10 月に呉市吉浦秋大祭見学ツアーを行い日本文化体験学習の機会を提供した。日本の祭りの歴史と地域社会について学ぶとともに来日直後の留学生間及び地域の人々との国際交流の場ともなっている。

◆ **授業科目の開設状況**

短期プログラム用の開設科目は、毎年、各学部で審議され、今年度も、特設科目・常設科目・日本語教育が短期交換留学生のために開講された。日本語教育科目は、短期交換留学プログラム用の特設科目となっている。2003 年度から初級・中級を特

設科目とし、上級の科目は研修生や正規留学生及び研究生と合同で受講することになり、幅広い充実した日本語カリキュラムが組まれている。

◆ 「グローバル化支援インターンシップ」

2003 年度より春学期に「HUSA インターンシップ」コースを開設して以来、毎年インターンとして地域企業に 2 週間派遣してきた。2005 年度よりインターンシップ派遣前に事前研修を開始し、インターンシップの準備体制を充実させてきた。2010 年度前期より企業体験者を招聘して全学公開セミナーを開き、留学生が本学学生と共に国際的視野から将来を考える場を創出した。また、2010 年度後期からは社会体験者講話に基づいた PBL（課題発見解決型学習法）による留学生と本学学生の協同学習も導入し、学生のグローバルな視野からのアクティブ・ラーニングの場を構築してきた。

2012 年度秋学期からは、「グローバル化インターンシップ I : キャリア理論と実践」・「グローバル化支援インターンシップ II : 実習」と題して新しく「学生主導型」の交換留学生向けインターンシップの授業を開講した。「派遣型」から「学生主導型」へと新しくパラダイム転換を図った「グローバル化支援インターンシップ」では、留学生の学術知を地域社会において実践知として生かす国際的体験学習の場を構築している。

「地域国際観光プランナー」インターンシップでは、呉市市役所産業部観光振興課の協力を得て、留学生インターンが国際観光ガイドとして地域の歴史的資産を紹介する「国際観光ガイド」に挑戦する企画を発展させた。また、「国際交流歴史ツアー」企画では、地域との連携を強化し、留学生の知見を地域創生に生かす方策を模索している。2013 年 4 月には「江田島国際交流歴史ツアー」、2014 年 4 月には「倉橋・江田島国際交流歴史ツアー」を企画するなど様々なツアー企画に挑む実習を発展させてきた。呉市立倉橋中学校との国際交流会では、留学生インターンが留学体験について日本語でスピーチを行うなど、日本文化の理論的知識を地域学校及び地域社会の人々と共有するとともに協同学習の場を構築し、外国人の知見を多文化共生の地域づくりに貢献している。

◆ 自国と日本に関する比較研究

2013-2014 年度より、プログラム参加留学生は、各自が研究テーマを自由に選択し、研究を行っている。2013 年度は自国と日本との比較研究、2014 年度は日本に焦点をあてた研究を進めた。テーマは、敬語の使用法、方言、小説、日本の世界文化遺産の保護、古代日本における漢字、教育問題、日本の外交史、日本による開発支援、留学の課題、日本の若者と政治、など多岐に渡る。研究発表会では日本に関する調

査結果を提示し合うことにより研究成果を共有し相互の知識を高めている。

◆ 文化交流支援活動

9 月に来日した際に行う HUSA プログラム･オリエンテーションは 2006 年度より 2 日間に亘って行っており、本学で勉学するにあたっての心構えや事務手続きなど全般に渡る指導を行っている。異文化適応についての指導や、HUSA プログラム参加留学生間の交流及び広島大学学生との交流並びに先輩からのアドバイスも盛り込み、学生間の交流を促進し、本学での生活に早く慣れるよう企画した。

国際センターで運営する国際交流ボランティア制度を利用し、日本人学生の会話パートナーを短期交換留学生に紹介する会合を開き、交流を促進した。また、日本人サポーターを、国際交流ボランティア、広島大学電子掲示板を通して募集し、国際交流に関心の高い学生を採用し充実した支援提供に努めている。

◆ 地域貢献

2003 年~2006 年度まで、東広島商工会議所より、国際理解のための留学生の母国についての講話の依頼があり、フランス・韓国(2003)、アメリカ・カナダ・ギリシャ(2004)、ドイツ(2005)、タイ(2006)からの HUSA 留学生が商工会議所を訪問し、母国の文化・習慣や日本との相違について話す体験を持った。担当教員も、2011 年度に東広島商工会議所文化交流委員会において、「広島大学の国際化と産学連携 : 短期交換留学生インターンシップ」と題して講話を行った。2011 年度より「グローバル化支援インターンシップ」により地域の国際観光振興や多文化共生の地域づくりに貢献する留学生の国際的体験学習を企画してきた。地域の小学校・中学校・高校における国際交流も企画してきている。これらの体験学習により日本の地域社会と連携する力もつけつつある。

◆ HUSA 広報活動

HUSA ホームページにはプログラムの概要、申請方法、スタッフ紹介、HUSA に関するニュース、開講コース案内、インターンシップと産学連携、奨学金・寮・大学施設についての情報、国際交流行事案内、HUSA パンフレット、広島大学及び地域についての情報など、留学に関わる情報が網羅されている。サイトを常に更新し、HUSA プログラムについての最新情報を提供している。2014 年 5 月には HUSA フェースブックを立ち上げ最新のニュース提供を行っている。また担当教員の研究ホームページにおいて HUSA プログラムの授業や国際教育・異文化間教育等の分野に関する研究の紹介をしている。

◆ HUSA プログラム評価

プログラム改善に役立てるため、毎学期、HUSA プログラム全体評価、各コース評価、学生チューター評価を行っている。学生にアンケート用紙を配布し、回収し、結果をまとめ、プログラム改善に役立てている。アンケート調査結果は短期留学交流プログラム部会において報告し改善のための示唆を得ている。

IV. 2014-2015 年度 HUSA プログラム派遣留学に関する活動

本学からの留学生派遣事業に関しては、本年度も 2014 年 1 月初旬に応募者の選考試験を行い、中旬には短期留学交流プログラム部会で選考を行った。2-3 月には、協定大学への申請手続きを行い、5 月から 10 月に派遣した。オセアニアへは、2015 年の 1-2 月に派遣した。以下は、派遣学生の募集と選考に関しての概要である。

１．制度の趣旨：

広島大学短期交換留学(派遣)プログラムは、本学の学部生・大学院生が在籍しつつ、学生交流協定に基づいて、海外の協定大学へ 1 学期または概ね 1 年間留学し、専門教育または外国語教育等を受けて単位を取得するものである。本学で単位互換することにより、海外に留学しても通常の修学年限内に卒業できることを目指した制度である。本プログラムは、1996 年後期から開始され、現在アメリカ、カナダ、ブラジル、オーストラリア、ニュージーランド、インドネシア、シンガポール、タイ、フィリピン、マレーシア、韓国、中国、台湾、トルコ、ポーランド、ロシア、オーストリア、イギリス、オランダ、スウェーデン、ドイツ、フィンランド、フランス等の 67 大学からの交換学生を受入れ、同時にそれらの大学へ、本学に在籍する学生を派遣している。また、海外の高等教育機関によって運営されている USAC や UMAP 等のコンソーシアム型の学生交流に参加することで、本学からの派遣国並びに派遣対象大学は拡大し、過去においても本学が独自に協定を持たないガーナ、メキシコ、コスタリカ、イタリア、フランス、スペイン等へも派遣している。さらに非営利団体である「あしなが育英会」とも協定を締結し、これまでに 2 名の留学生を受け入れている。

２．特徴：

- **授業料不徴収**： 本プログラムで留学する学生は、協定大学では授業料を支払う必要がない。
- **奨学金**：日本学生支援機構による留学生交流支援制度、並びに佐藤陽国際奨学財団海外派遣奨学制度等の奨学金が一部派遣学生に支給されている。
- **単位互換制度**： 全協定大学の単位制度に対し、UMAPのUCTSを活用することにより、公平、且つ正確な単位互換を行っている。また、UMAP学習

計画書を実施することにより、派遣学生・指導教員・協定大学が、学生の履修計画並びに単位互換に関し、事前に相互に承諾を得ることができ、交換留学の実質的な活動を円滑に進めることができる。

- **現地コーディネーターのアシスタント**:協定大学の国際室並びに関係部局における本学との交流事業をコーディネートする事務職員と連携し、派遣学生の留学生活を支援している。
- **短期交換留学生との留学前の交流及び留学後の現地での交流**:留学前に留学先から本学に留学している学生と交流会を持つことにより、現地での生活の状況、授業やクラブ活動等の学生生活に関する最新の情報等を得ることができる。また、留学後は、帰国した留学生と現地での交友関係を構築しやすい。

３．出願書類

①派遣申請書

②留学計画書

③外国語検定試験の成績表

(英語・中国語・ドイツ語・フランス語の検定試験については、それぞれの検定試験に一定の基準を設け評価している)

④学業成績証明書

４．出願書類提出先及び締切り

各学部等派遣留学担当係へ例年 11 月末までに提出する。

５．面接（口述）試験

(ア) 学生から提出された申請書類の留学計画を基に例年 1 月の第 1 週に面接試験を行っている。試験は、広島大学短期留学交流プログラム部会の委員による 1 グループ 3 名程度の審査員によって実施される。審査員が学生の留学計画、異文化適応能力等についてそれぞれ 5 段階評価をつけ、その平均点を最終審査会の 1 つの評価指標としている。

６．選考委員会の実施

(イ) 例年 1 月下旬に、広島大学短期留学交流プログラム部会において、派遣留学生の選考を実施している。主に学生の留学志望校、語学能力、面接試験結果、学業成績を考慮し、可能な限り多くの学生を推薦できるよう配慮し選考及び推薦を行っている。

V. 2014-2015 年度 HUSA 留学生派遣事業の実績

2014 年度の短期交換留学生派遣に関しては、４０名を推薦し、アメリカ、ブラジル、カナダ、イギリス、フィンランド、フランス、ドイツ、ニュージーランド、ポーランド、中国、韓国、台湾、インドネシア、シンガポール、タイの 20 大学と 1 コンソーシアム・プログラムへ派遣した。派遣国は、欧米だけでなく、アジア諸国への派遣も拡大しているが、全協定大学との交流バランスでは受入れ超過傾向にあり、今後もアジアだけでなく欧州諸国への派遣留学も促進する必要がある。また、本学では、協定大学が開講する超短期（1 学期未満）プログラムへの留学も選考、派遣しており、2014 年度は、4 大学（台湾、韓国 2 校、ロシア）へ合計 11 名を派遣した。派遣規模は、年々拡大しており、受入れ超過傾向にある協定大学への通常の 1 学期または 1 年間の派遣を含め、今後も継続して派遣を拡大していく計画である。

VI. HUSA 留学生派遣事業の活動状況

広報活動：26 年度は、毎年 5-6 月に実施する留学フェア並びに説明会、そして担当教職員による交換留学に関するメールや面談による相談に加え、多くの一般学生が集うラウンジに留学情報コーナー及び学生アシスタントによる留学相談デスクを設置した。その結果､協定大学の紹介や留学までの段階的な留学準備の仕方について興味のある学生は､いつでも情報収集し、留学相談できるようになった。

留学前の情報提供と留学計画の促進：例年、派遣が決定した本学の学生に対し 2 度（4 月と 7 月）に渡るオリエンテーションを実施しており、留学に関する一般的な情報と共に、協定校から来ている留学生との交流の場を提供している。その学生間の交流は留学後も続き、協定校においても継続的な交流活動が行われている。また、留学前に指導教員及び学部と単位互換について確認する目的で、UMAP 学習計画書を 6 月の第２回目のオリエンテーションで配布し、留学前までに提出するよう要求している。

INU 特別協力講義：26 年度も、派遣留学を促進するため、すでに 2006 年より開講してきた INU 特別協力講義並びに集中講義を実施した。一般の教養科目として開講されている INU 特別協力講義は、INU ネットワークを利用し、アメリカとオーストラリアの協定大学の教員によるビデオ講義を活用した WebCT 上で授業を展開するオンライン教育科目である。教育交流部門の教員がそのうちの１科目（特別講義と集中講義合わせて 1 セットの講義）を担当し、「アメリカの文化と社会」と題し、アメリカ人講師のビデオ講義を基に授業を行った。

VII. その他の主な活動

本学は、学外での活動としてアジア太平洋諸国の政府並びに高等教育機関によって運営されているUMAP（アジア太平洋学生交流機構）の学生交流促進事業に積極的に参加してきた。

2013年5月には、本学の担当教員がUMAPがこれまで活用してきたUCTS（UMAP単位互換制度）について、新たな概念（**Asian Academic Credits, 以下AACs**）の導入を提案し、国際理事会にて、承認された。

AACs の概念とは、以下の通りである。

１UCTS＝38～48 学修時間数とする。また、その学修時間数には、13～16 時間の授業時間数(academic hour)が含まれる。

AACsを新たなＵＣＴＳの基本理念として導入することによりUMAP参加大学の多くの間では、1単位の価値は等価と見なすことができ、単位互換が簡素化され、学生交流の促進が期待できる。また、アジア共通の単位互換性度を構築した場合、欧米諸国との単位互換も簡素化され、アジアと他地域の学生交流促進にも貢献することができる。ただし、新たな概念は科目間の内容の互換性を保証する手法が含まれていないので、今後、さらなる開発が必要である。現在、同様の単位互換の概念は、アセアン諸国等の他の学生交流事業においても、導入が検討されている。例えば、アセアン諸国はメコン川流域6ヶ国（タイ、中国、マレーシア、カンボジア、ラオス、ベトナム）の23大学を対象に2015年度から新たな学生交流事業としてACTFA(Academic Credit Transfer Framework for Asia)プロジェクト（アジア開発銀行支援）を立ち上げた。そして、そのプロジェエクトでは、**AACs**の概念を活用し、参加大学の学生交流事業を拡充しようとしている。

海外からの表敬訪問・海外及び国内の大学訪問及び会議への参加等

2014 年

4 月　＊ 広島大学短期交換留学プログラム留学生と呉市立倉橋中学校との国際交流会開催（恒松）

＊ UMAP 国際理事会（東京）に出席　（堀田）

＊ 日仏学位相互認証に関する協定書締結に向けた交渉会議に出席

6 月　＊ UMAP 国内委員会に出席（堀田）

＊ 国立大学協会国際交流委員会に専門員として出席

8月　＊ 欧州―アジア諸国合同開催「ASEMダイアログ（質保証・認証）」国際会議に出席し、AACsの概念について講演

＊文部科学省推進「こども見学デー」開催（広島大学国際センター）（恒松）

＊異文化理解講座＆地域国際交流会開催（呉市倉橋市民センター）（恒松）

10月　＊「倉橋長門の造船歴史館の国際的広報の施策」公開国際セミナー開催（広島大学国際センター）（恒松）

11月　＊ 広島大学付属高校スーパーサイエンス・ハイスクール「科学英語表現」英語合宿講師（恒松）

＊ カンボジア政府主催「ERASMUS-MUNDUS カンボジア国際ワークショップ」にてAACs の概念とアジアでの発展状況について講演　（堀田）

12月　＊ 上智大学主催「ASEM国際シンポジウム」にて、AACsの概念とアジアでの発展状況について講演

2015年

2月　＊ 呉市倉橋町「長門の造船歴史館」」においてHUSAプログラム留学生による「国際観光ガイド」実習（「グローバル化支援インターンシップ」（恒松）

＊ 北海道大学来校

3月　＊ 広島大学STARTプログラム引率（アメリカ・James Madison University）（堀田）

日本語・日本文化特別研修（中国）（台湾）（アジア非漢字圏）、中国語・中国文化特別研修、華語・台湾文化特別研修

本田義央

１．日本語・日本文化特別研修（中国）（台湾）（アジア非漢字圏）

本プログラムは、中華人民共和国及び台湾の大学で日本について学んでいる学生を２週間本学に受入れ、研修生が、日本語・日本文化の講義、実習・体験、学生交流によって、日本についての理解・関心を深め、帰国後さらに勉強を続けた後、本学へ再び留学し、日中及び日台の交流に貢献できる人材として成長することを支援することを目的として 2010 年度夏から実施してきたものである。今年度は、これまでの中華人民共和国と台湾からのそれぞれ夏冬１つ計４つの研修に加え、アジア非漢字圏諸国を対象としたプログラムを追加し、インド、インドネシア、ベトナム、マレーシア、モンゴルの５カ国から研修生を受入れた。なお、アジア非漢字圏プログラムは、日本学生支援機構留学生交流支援制度（短期受入れ）の支援により一部の研修生が奨学金を受給して実施された。各研修の実施期間及び受入れ人数は次の通りである。

夏期（台湾）　７月８日～23 日　28 名
　　（中国）　７月 21 日～８月５日　38 名
　　（アジア非漢字圏）８月 18 日～９月２日　36 名
冬期（台湾）　１月 21 日～２月５日　12 名
　　（中国）　２月２日～17 日　49 名

過去の研修生で本学大学院へ留学した者の中から、来年度に初めての博士課程前期修了者が出る予定である。引き続き研修を改善し、広島大学の魅力を伝え、優秀な留学生の獲得へつなげていきたい。

２．中国語・中国文化特別研修

本プログラムは、１．日本語・日本文化特別研修（中国）との双方向性をもつ派遣プログラムとして実施してきたもので、今年度も中華人民共和国への２週間の派遣プログラムとして計画したが、応募者が少なく中止せざるを得なかった。政治的な問題などが応募少数の要因であるが、そうであるがゆえに、相互の言語・文化の理解深化と若い学生間の交流の重要性を伝える努力が今後必要であろう。

３．華語・台湾文化特別研修

本プログラムは、１．日本語・日本文化特別研修（台湾）との双方向性をもつ派遣研修と

して実施してきたもので、今年度は、8 月 18 日～9 月 1 日の 2 週間、桃園市の開南大学に 5 名の研修生を派遣した。

研究・その他の活動

１．研究論文・著書

恒松直美 「日本人学部生の大学生活における意識変容の語り ― 質的調査の観点から ―」『総合学術学会誌』第 13 号，2014 年，pp.19-26

恒松直美 「地域社会と連携した『学生主導型』交換留学生インターンシップの挑戦 ― 地域再生への貢献と留学生のエンパワーメント ―」日本学生支援機構 JASSO, ウェブマガジン『留学交流』，2014 年 8 月号，Vol.41
http://www.jasso.go.jp/about/documents/201408ryugakukoryu.pdf

恒松直美 「地方の中学校と留学生の異文化接触 ― 地域に変革をもたらす交換留学生インターンシップ ―」『広島大学国際センター紀要』第 5 号，2015 年，pp.19-33

恒松直美 「地域行政関係者の留学生『国際観光ガイド』インターンシップ評価 ― 大学と地域行政が挑む国際的地域力の創造 ― 」『広島大学留学生教育』第 19 号，2015 年，pp. 42-57

中川正弘 「Roland Barthes : *Le Degré zéro de l'écriture* ― 日本語翻訳とレアリテの対象化 ―」,『広島大学フランス文学研究』，第 33 号，2014 年，pp. 37-59（広島大学図書館リポジトリ登録公開版には補遺 22 頁付）

中川正弘 「思う／考える」における意味の境界と分節 ― リアリティーから見る言語 ―,『広島大学留学生教育』，第 19 号，2015 年，pp.1-14

中矢礼美 「インドネシア・アンボンにおける世代別アイデンティティの特徴と教育に関する考察」広島大学国際センター編『国際センター紀要』5, 平成 26 年 3 月，pp.35-49

中矢礼美 「インドネシアの高等教育における地域開発のための人材育成 ― 実践教育（KKN）に注目して」広島大学高等教育研究開発センター『大学論集』47, 平成 26 年 3 月，pp.215-230

中矢礼美 第 14 章　インドネシアとトランスナショナル・エデュケーション 杉本均（編著）『トランスナショナル高等教育 ― 新しい留学概念の登場』東信堂，平成 26 年 7 月，pp.241-256

中矢礼美 第 15 章　南太平洋における地域大学の特徴 ― トランスナショナル教育の視点から ― 杉本均（編著）『トランスナショナル高等教育 ― 新しい留学概念の登場』東信堂，平成 26 年 7 月，pp.257-270

深見兼孝 「日本語と朝鮮語における姿勢動詞の対照研究(1)」『ニダバ』第 44 号，2015 年 3 月，pp.109-118

深見兼孝 「『とても』が韓国語で程度副詞に翻訳されないとき」『広島大学国際センター紀要』第 5 号，2015 年 3 月，pp.51-60

本田義央 「外国人学生のための日本語日本文化研修の意義」『北研學刊』第 11 号，2014 年，pp. 8-23

２．学会発表

恒松直美　「短期交換留学生向け『グローバル化支援インターンシップ』― 地域国際化支援への挑戦とエンパワーメント ―」，日本総合学術学会 2014 年度春季大会，広島大学東千田キャンパス，2014 年 6 月 21 日

Tsunematsu, Naomi, “Challenge of ‘Globalization Support Internship’ by International Exchange Students: Support for the Revitalization and Internationalization of Local Society”, 日本比較教育学会 第 50 回大会, 名古屋大学, 2014 年 7 月 13 日

深見兼孝　「主体としての組織・団体が場所格で表示される構文」，2014 年度日本総合学術学会春季大会, 広島大学（千田キャンパス），2014 年 6 月 21 日

深見兼孝　「日本語の「時を表す名詞＋デ」と韓国語の「時を表す名詞＋로」について」，2014 年度韓国日本語学会秋季大会, The Catholic University of Korea（韓国）, 2014 年 9 月 20 日

３．その他の活動

A. 地域貢献、社会貢献

恒松直美　広島大学高等教育開発センター　学内併任研究員
恒松直美　広島大学「グローバルインターンシッププログラム」（G. ecbo）運営委員
恒松直美　広島大学附属高等学校スーパーサイエンス・ハイスクール運営指導委員

恒松直美　教育開発国際協力研究センター(CICE)学内客員研究員

恒松直美　広島市市民局指定管理者指定審議会委員

中矢礼美　広島県教育委員会平成 26 年度「グローバル教育加速プロジェクト」に係る運営指導委員会委員（平成 26 年４月～）

中矢礼美　平成 26 年度課題別研修「平和のための教育 ― 相互理解の促進をとおして―」JICA 研修コースリーダー（平成 26 年５月～６月）

B. 学会活動

恒松直美　日本総合学術学会　監事

恒松直美　日本比較教育学会　常任幹事

中川正弘　日本フランス文学フランス語学会　中国・四国支部実行委員

中川正弘　広島大学フランス文学研究会　参与

中矢礼美　日本比較教育学会　常任幹事

中矢礼美　留学生教育学会編『留学生教育』　論文査読

中矢礼美　中国四国教育学会編『教育研究ジャーナル』　論文査読

深見兼孝　西日本言語学会　運営委員

深見兼孝　日本総合学術学会　理事

深見兼孝　韓国学研究会　会長

C. 講演・ワークショップ等

恒松直美　「留学生の地域における活動について」，第8回広島県留学生・大学グローバル化研究会勉強会，広島県庁，2014年9月2日，広島県庁自治会館

恒松直美　広島大学附属高校スーパーサイエンス・ハイスクール「科学表現」英語合宿における指導，2014 年 12 月 1 日